

彙 報

2022年（令和4年）4月～2023年（令和5年）3月

研究状況 (2022年度)

公募型研究班

清代～近代における経学の断絶と連続：目録学の視
角から

班長 竹元規人

研究期間

2020年4月～2023年3月（3年度目）

研究実施状況

定例の研究会においては、一通り完成した『文史通義』内篇訳注について、全体を見直して再検討を加えるとともに、章学誠の学術構想を通して古代から近現代に至る中国学術史を俯瞰する研究論集『章学誠の可能性』の刊行に向けた、班員による研究発表を行った。

2022年7月には、関西大学東西学術研究所との共催による国際シンポジウムを行い、近代の日本・中国における章学誠研究の開始・展開が、20世紀の中国学に与えたインパクトと意義を考察・討議した。

2023年3月には、国際ワークショップ「中国近代における経書を受容と変容」を開催し、章学誠の目録学の視角を踏まえながら、中国近代において経書がどのように再認識され、経学がいかなる思想的・学術的意味を持ちつつ展開したか、多角的に検討した。

『『文史通義』内篇五訳注』を『東方学報』に掲載し、それによって『文史通義』内篇の訳注刊行を完

結させることができた。

研究班員

所内：古勝隆一、永田知之、藤井律之、白須裕之、楊維公

学内：福谷彬（人間環境学研究科）、宇佐美文理（京都大学大学院文学研究科）、道坂昭廣（京都大学大学院人間環境学研究科）、王孫涵之（京都大学大学院文学研究科）、臧魯寧（京都大学大学院文学研究科）、王歆（京都大学大学院文学研究科）、田尻健太（京都大学大学院文学研究科）、成田健太郎（京都大学大学院文学研究科）

学外：竹元規人（福岡教育大学教育学部）、内山直樹（千葉大学）、白石将人（三重大学）、小島明子（新潟大学）、古橋紀宏（香川大学・教育学部）、新田元規（徳島大学・総合科学部・准教授）、渡邊大（文教大学・文学部）、重田みち（早稲田大学・演劇博物館）、山口智弘（駒澤大学・文学部）、中原佑真（帝京大学・文学部）、馬延輝（清華大学・歴史学系）、李弘喆（上海師範大学）

研究実施内容

2022年

4月19日 成果出版に向けて、班長・副班長から趣旨説明とご相談 司会：古勝隆一

5月17日 『文史通義』訳注の再検討
発表者：新田元規
（徳島大学総合科学部）

6月14日 研究発表
余嘉錫の章学誠理解：継承と批判
発表者：古勝隆一

- 戴震と章学誠と胡適：乾嘉への接続と
 学術史の文脈 発表者：竹元規人
 (福岡教育大学教育学部)
- 19 世紀中国の知識人が見た章学誠と
 その言説：史論家・思想家への道
 発表者：永田知之
- 7 月16日 『文史通義』訳注の再検討
 発表者：新田元規
 (徳島大学総合科学部)
- 10月18日 研究発表
 朱陸折衷論の系譜と章学誠
 発表者：福谷 彬
 (人間・環境学研究科)
- 『尚書』の体例をめぐる一考察：章学
 誠「書無定体」説を手がかりとして
 発表者：内山直樹 (千葉大学)
- 11月27日 研究発表
 章学誠〈文史・校讎の学〉における義
 と例 発表者：渡邊 大
 (文教大学文学部)
- 張爾田と『文史通義』
 発表者：竹元規人
 (福岡教育大学教育学部)
- 12月21日 研究発表
 劉咸炘と章学誠
 発表者：田尻健太 (文学研究科)
- 章学誠の伝記体テキスト論
 発表者：成田健太郎 (文学研究科)
- 2023 年
- 1 月17日 研究発表
 章学誠の『史記』認識からみた史記学
 発表者：李 弘喆 (上海師範大学)
- 中国と日本における「源流」観：章学
 誠を手がかりに 発表者：重田みち
 (早稲田大学演劇博物館)
- 2 月21日 研究発表
 章学誠の可能性一 総論
 発表者：古勝隆一
- 章学誠の文章論と「読者の反応」一
 『文史通義』内篇「俗嫌」を中心とし
 て 発表者：永田知之
- 3 月19日 国際ワークショップ「近代中国におけ
 る経書を受容と変容」
 高亨の『周易』研究について
 発表者：陳 佑真 (帝京大学)
- 『春秋』から『尚書』へ一 二つの今古
 文論争 発表者：竹元規人
 (福岡教育大学教育学部)
- 近代詩經學的跨文化阐释
 発表者：邱 惠芬 (長庚科技大學)
- 康有為の『春秋』観一 今文学「微言
 大義」の視点から
 発表者：吉田 勉 (北海道教育大学)
- 「層累遞進・融凝成體」之孔學一 錢穆
 《論語》解析論
 発表者：金 培懿 (台湾師範大学)
- 「日本の伝統文化」を問い直す 班長 重田みち
 研究期間
 2020 年 4 月～2023 年 3 月 (3 年目)
 研究実施状況
 本年度は 6 回の研究会を開催した。美術史、思想
 史、文学史、庭園史、仏教史、書道史、芸能史、書
 物史、などの分野の研究報告を実施したほか、最終
 報告書作成に向けて班員各位のドラフトを検討した。
 研究班員
 所内：菊地暁、稲本泰生、岡村秀典、古勝隆一、
 高階絵里加、平岡隆二、呉孟晋
 学内：成田健太郎、福谷彬
 学外：重田みち (京都芸術大学)、王孫涵之 (弘
 前大学)、柳幹康 (東京大学)、上川通夫
 (愛知県立大学)、竹内有一 (京都市立芸
 術大学)、今枝杏子 (神戸女学院大学)、
 井上治 (京都芸術大学)、神津朝夫 (奈良
 県立大学)、河野貴美子 (早稲田大学)、
 佐々木孝浩 (慶應義塾大学)、陳佑真 (帝
 京大学)、ガリア ベトコヴァ (叡啓大
 学)、水口拓壽 (武蔵大学)、宮崎涼子
 (京都芸術大学)、田中健一 (文化庁)、西
 谷 功 (泉涌寺・心照殿)、シビレ ギル
 モンド (ヴュルツブルク大学)、外村中
 (ヴュルツブルク大学)

- 研究実施内容 (泉涌寺), 今枝杏子
2022年 (神戸女学院大学)
- 6月19日 「証本」にみえる日本の書籍文化：清
家の経書「証本」を中心として 燕京大学図書館における蔵書形成：日
本書籍を中心として
発表者：王孫涵之 (弘前大学) 発表者：河野貴美子 (早稲田大学)
コメンテーター：古勝隆一 コメンテーター：呉 孟晋
- 明治期の来舶清人の動向について 3月11日 執筆計画報告
発表者：呉 孟晋 発表者：王孫涵之 (弘前大学),
コメンテーター：稲本泰生 福谷 彬 (人間環境学研究科)
- 7月31日 松崎鶴雄の『詩経』学 発表者：ガリア・ベトコヴァ
発表者：陳 佑真 (帝京大学) (叡啓大学)
コメンテーター：河野貴美子
(早稲田大学)
- 海を渡った韓書と漢籍 執筆計画報告：総論
発表者：重田みち (京都芸術大学)
- 9月4日 慈照寺弄清亭の再建：明治前期の古社 実験性の生態学：人新世における多種共生関係に関
寺保存事業との関連性についての検討 する比較研究 班長 モハーチ ゲルゲイ
を中心に 研究期間
発表者：宮崎涼子 (京都芸術大学) 2020年4月～2023年3月(3年目)
コメンテーター：神津朝夫 研究実施状況
(奈良県立大学) 令和4年度は、初年度から続く新型コロナウイルス
平安京の中軸線と南望天闕の伝統につ 感染の影響で進められなかった国際的な共同研
いて 究に注力した。鈴木と石川は、それぞれ特別研究員
発表者：外村 中 としてカリフォルニア大学とアムステルダム大学と
(ヴェルツブルグ大学) の連携に取り組んだ。また、各班員は令和3年度ま
コメンテーター：水口拓寿 でに行った研究内容の整理を踏まえて、それぞれの
(武蔵大学) 分野で「実験性」の事例を探究してきた。国内では、
11月13日 執筆計画報告 発表者：神津朝夫 「実験性の生態学」と題したシリーズのもとで、ケン
(奈良県立大学), ブリッジ大学やコペンハーゲン大学などから研究
古勝隆一, 成田健一郎 者を招き、3回の国際ワークショップを開催し、ま
(文学研究科), 柳 幹康 た広島大学と2月に共催シンポジウムを実施した。
(東京大学) 秋以降、本共同研究班の最終成果の公表に向けて、
「女もの」の系譜—日本のパフォーマンス 各班員は研究課題の検討を個別に進め、シンポジウ
文化をジェンダーの観点から問い ムや研究会を通じて国内外の研究者と進捗状況や共
直す 発表者：ガリア・ベトコヴァ 同編集の内容について意見交換を行った。
(叡啓大学) 研究班員
コメンテーター：重田みち 所内：石井美保, 瀬戸口明久, 酒井朋子
(京都芸術大学) 学内：石川登 (東南アジア地域研究所)
2023年 学外：モハーチ ゲルゲイ (大阪大学人間科学研究
1月8日 執筆計画報告 発表者：佐々木孝浩 科), 鈴木和歌奈 (大阪大学人間科学研究
(慶應義塾大学), 科), 森田敦郎 (大阪大学人間科学研究
陳 佑真 (帝京大学), 西谷 功 科), 中空萌 (広島大学人間社会科学研究

- 所)
2022 年
- 6月18日 国際シンポジウム Experimental Ecologies: Case Studies from Amazonia and Japan
Testing moral judgement in Amazonia: An experiment with an experiment 発表者: Harry Walker (Department of Anthropology, London School of Economics)
Experimenting in art: Sensing and knowing with contemporary Japanese artists 発表者: Iza Kavedzi (Department of Social Anthropology, University of Cambridge)
- 12月6日 国際シンポジウム Ecologies of Experimentality: A Comparative Approach to Multispecies Coexistence in the Anthropocene
Art-farming as repairative practices for broken techno-ecological systems 発表者: Line Marie Thorsen (University of Copenhagen)
Attention, experiments, and everyday life: Dwelling in areas near the Fukushima nuclear power stations 発表者: Tomoko Sakai
Umetate life. Negative heritage and pipe dreams on a reclaimed land in Ōsaka bay 発表者: Emilie Letouzey (Department of Anthropology, Osaka University)
- 12月22日 国際シンポジウム Ecologies of Experimentality: A Comparative Approach to Multispecies Coexistence in the Anthropocene
Rewilding Bangkok: Parks and Protests as Critical Zones 発表者: Casper Bruun Jensen (N/A)
- 2023 年
- 2月20日 国際講演会 Stefan Ecks Lecture on Embodied Value Theory
Embodied Value Theory
発表者: Stefan Ecks (Department of Anthropology, University of Edinburgh)
コメンテーター: Akinori Hamada (University of Tokyo); Gergely Mohacsi, Department of Kyosei Studies, Osaka University)
- 仏教天文学説の起源と変容 班長 小林博行
研究期間
2021 年 4 月～2024 年 3 月 (2 年目)
研究実施状況
今年度も感染症流行のため研究計画の変更を余儀なくされ、共同研究会はおおむねオンラインで実施することになった。そうした変更はあったものの、最終的には計 18 回の研究会を重ね、当初の目標であった『宿曜経』会読は全編の通読と問題意識の共有を完了し、『仏国曆象編』については巻 3 の途中まで訳稿検討を進め、また訳注出版に向けた編集作業を開始した。また 4 月にはこれまでほとんど注目されてこなかった『宿曜経』版木にまつわる報告を得、9 月には隣接領域の科研プロジェクトとの共催で国際シンポジウムを実施するなど、今後の研究発展のために有意義かつ重要な成果を得た。また 3 月には、班員らで企画・編集・寄稿した、日本科学史学会欧文誌 *Historia scientiarum* の東アジア科学史特集号を刊行することができた。また、今後の編集・検討作業に必要な『梵蒂岡圖書館藏明清中西文化交流史文獻叢刊・第 2 輯』などの文献を研究班予算で購入した。
- 研究班員
所内: 平岡隆二, 高井たかね, 宮紀子, 武田時昌
学内: 檜山智美 (白眉センター)
学外: 小林博行 (中部大学人文学部), 三村太郎 (東京大学大学院・総合文化研究科), 豊田裕章 (大阪大学), 多田伊織 (大阪大学), 白雲飛 (大阪府立大学), 梅林誠爾

- (熊本県立大学), 高橋あやの (関西大学), 橋本敬造 (関西大学), 矢野道雄 (京都産業大学), 清水浩子 (大正大学), 梅田千尋 (京都女子大学文学部), 吉村美香 (愛知淑徳大学), 新居洋子 (大東文化大学), 金子貴昭 (京都先端科学大学), 岡田正彦 (天理大学), Bill Mak (ニーダム研究所), Jeffrey Kotyk (ブリテイッシュコロニア大学), Daniel Monteiro (パリ大学), マティアス・ハイエク (フランス国立高等研究実習院), 宮島一彦 (中之島科学研究所), 吉田薫 (独立研究者)
- 研究実施内容
- 2022 年
- 4 月23日 研究報告会
江戸期高野版の板木一『宿曜経』(享保 21 年序)を中心に
発表者: 金子貴昭 (立命館大学)
『仏国暦象編』訳注作成の経緯と展望
発表者: 宮島一彦 中之島科学研究所
- 5 月23日 『宿曜経』会読 下巻 14b10 行動禁閉法~16b03
発表者: 高橋あやの (関西大学)
- 6 月27日 『宿曜経』会読 巻下 16b04 二十七宿三九秘要法~19a07
発表者: 清水浩子 大正大学
- 7 月10日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 2.30b06-32a10 発表者: 梅林誠爾 (熊本県立大学)
巻 2.32b01-34a04 発表者: 宮島一彦 (中之島科学研究所)
- 7 月25日 『宿曜経』会読 下巻 19a08 七曜直日曆~20b06 発表者: 白雲飛 (大阪府立大学)
- 9 月11日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 2.34a05-36b08 発表者: 小林博行 (中部大学)
巻 2.36b09-37b03+38b 挿図
発表者: 平岡隆二
- 9 月18日 Magic in the Medieval and Early Modern Islamic World and Europe
(中近世のイスラム圏とヨーロッパの魔術知) Ps.-Aristotelian Hermetica
発表者: Liana Saif (アムステルダム大学)
Magic and Kalām Theology in the 14th and 15th Centuries
発表者: Yuki Nakanishi (大阪大学)
Paracelsian Concept of the Homunculus 発表者: Amadeo Murase (聖学院大学)
- 9 月26日 『宿曜経』会読 下巻 20b07 七曜占~24a05 発表者: 三村太郎 (東京大学)
- 10 月9日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 2.37b03-39b02 発表者: 宮島一彦 (中之島科学研究所)
巻 2.39b03~41b07 発表者: 平岡隆二
- 10 月24日 『宿曜経』会読 下巻 20b07 七曜占~24a05 (継続)
発表者: 三村太郎 (東京大学)
史料紹介 発表者: 宮紀子
下巻 24a06 七曜直日与二十七宿合吉凶日曆~26a06[本文大尾]
発表者: 宮紀子
- 11 月14日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 2.41b08-43b09(巻 2 末)
発表者: 小林博行 (中部大学)
巻 3.01a01-02a06 発表者: 宮島一彦 (中之島科学研究所)
- 11 月28日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.02a07-06b01 発表者: 平岡隆二
- 12 月12日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.06b01~07b05 発表者: 平岡隆二
- 12 月26日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.07b05-09a06 発表者: 小林博行 (中部大学)
巻 3.09a07-10b10
発表者: 宮島一彦 中之島科学研究所

2023 年

- 1 月23日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.10b10～12b08 発表者：平岡隆二 巻 3.12b08-14a06 発表者：小林博行（中部大学）
- 2 月13日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.12a08-18b03 発表者：小林博行（中部大学） 巻 3.18b04-20a08 発表者：宮島一彦（中之島科学研究所）
- 2 月27日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.20a08-22a05 発表者：宮島一彦（中之島科学研究所） 巻 3.22a06～23b10 発表者：平岡隆二
- 3 月13日 『仏国暦象編』訳稿検討 巻 3.22a06～23b10 発表者：平岡隆二 巻 3.24a01-26a07 発表者：小林博行（中部大学）

東アジア災害人文学の構築 班長 山 泰幸

研究期間

2021 年 4 月～2024 年 3 月（2 年目）

研究実施状況

本年度も 5 回の研究会を実施した（通算第 6～10 回）。第 6 回は、北京外国語大学が主催する国際フォーラム「2022 中日韓区域合作与発展論壇」にて多々納班員が基調講演をおこない、また山泰幸班長と張政遠班員がセッションを組み報告をおこなった。第 7 回は、ゲストの陳亮全先生から台湾の大規模災害について、都留俊太郎班員から台湾の災害と水利用について発表があった。第 8 回は国際総合防災学会（IDRiM）にてセッションを組み、山班長、岡田憲夫班員、清水美香班員、大西正光班員、張班員、梶谷真司班員が登壇して、地域住民と人文科学研究者との間のフィールドでの対話についての問題を議論した。第 9 回は、ゲストの植村善博先生と竹内晶子先生から東アジアの禹王信仰と災害文化について発表があった。第 10 回は、阿部健一班員からレジリエンスの問題を中心に、またゲストの塚本明日香先生から中国の災異記録についての報告があり、災害をめぐる言葉や記録の面から討論がおこなわれた。

研究班員

所内：向井佑介、岡村秀典、岩城卓二、矢木毅、村上衛、平岡隆二、都留俊太郎

学内：多々納裕一（防災研究所）、矢守克也（防災研究所）、中北英一（防災研究所）、上原麻有子（文学研究科）、大西正光（防災研究所）、山口敬太（工学研究科）、清水美香（総合生存学館）、富井真（文学研究科）

学外：山泰幸（関西学院大学人間福祉学部）、梶谷真司（東京大学大学院総合文化研究科）、小川伸彦（奈良女子大学文学部）、鍾以江（東京大学東洋文化研究所）、関谷雄一（東京大学総合文化研究科）、張政遠（東京大学総合文化研究科）、岡田憲夫（関西学院大学災害復興制度研究所）、阿部健一（総合地球環境学研究所）、寺田匡宏（総合地球環境学研究所）、嶋田奈穂子（総合地球環境学研究所）

研究実施内容

2022 年

5 月27日 中日韓災害防治与安全保障国際合作（2022 中日韓区域合作与発展論壇）

東アジア災害人文学の構築

発表者：山 泰幸（関西学院大学）

巡礼と物語 — 災害の記憶をめぐる

発表者：張 政遠（東京大学）

東日本大震災の記憶と語り

発表者：金 映根（高麗大学校）

中国緊急事態管理改革及び災害 NGO の発展 発表者：全 成坤

（翰林大学校日本学研究所）

防災・減災における日中国際協力と将来への展望 発表者：伍 国春

（中国地震局地球物理研究所）

7 月23日 台湾の災害

台湾の大規模災害におけるコミュニティ復興及びその手法の比較 — 集集大地震とモラコット台風を対象に

発表者：陳 亮全

（台湾国立防災救助技術センター）

- 災害と共に生きる — 20 世紀台湾農村における水利用 発表者：都留俊太郎
- 9 月 22 日 Field-based efforts to promote communicative dialogues with local residents and researchers from humanity science- study of an implementation gap
発表者：Yoshiyuki Yama (山泰幸) (関西学院大学), Norio Okada (岡田憲夫) (関西学院大学)
司会：Mika Shimizu (清水美香) (総合生存学館)
コメンテーター：Masafumi Onishi (大西正光) (防災研究所), Ching-yuen Cheung (張政遠) (東京大学), Shinji Kajitani (梶谷真司) (東京大学)
- 10 月 8 日 東アジアの禹王信仰と災害文化 日本の禹王遺跡と災害文化
発表者：植村善博 (佛敎大学名誉教授, 治水神・禹王研究会会長)
大禹研究の現状と中国との交流
発表者：竹内晶子 (治水神・禹王研究会理事・事務局長)
- 12 月 3 日 災害の言葉と記録
言葉にこだわる：レジリエンス・共感・「関係価値」 発表者：阿部健一 (総合地球環境学研究所)
天意としての災異の記録 — 正史「五行志」の中の災害
発表者：塚本明日香 (岐阜大学)
- ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて 班長 香西豊子
- 研究期間
2021 年 4 月～2024 年 3 月 (2 年目)
- 研究実施状況
本年度は一ヶ月に一回のペースで、研究班の班員に発表をもらい、来年度の研究報告書作成に向けて、議論を重ねた。とりわけ、コロナパンデミッ
- クの時期に宗教法人がどのような対応をしたのかや、日本の水際対策、SNS での感染症をめぐる言説分析など、新しい論点も登場した。また、研究会の報告の一環として、2022 年 10 月 28 日に、附置研究所・センター会議 第 3 部会 シンポジウム「感染症と近代社会」で班長の香西豊子と副班長の藤原辰史がそれぞれ成果の一部を発表した。
- 研究班員
所内：藤原辰史, 石井美保, 直野章子, 瀬戸口明久, 小関隆, 岡田暁生, 小堀聡, Till Knautd, 酒井朋子
学内：糸田昌宏 (生命科学研究科)
学外：香西豊子 (佛敎大学歴史学部), 東昇 (京都府立大学文学部), 池田さなえ (大手前大学総合文化学部), リウユシユ・マルクス (龍谷大学世界仏敎文化研究センター), 新井卓
- 研究実施内容
2022 年
4 月 18 日 パンデミック第 16 回研究会
ランダムからの秩序の抽出～『生命らしさ』を生み出す分子・細胞・ウイルス～
発表者：糸田昌宏 (生命科学研究科)
5 月 16 日 パンデミック第 17 回研究会
日本における衛生映画の歴史
発表者：藤本大士 (教育学研究科 PD)
6 月 13 日 パンデミック第 18 回研究会
近世後期高浜村における疱瘡流行と迫・家への影響 発表者：東昇 (京都府立大学文学部)
7 月 11 日 パンデミック第 19 回研究会
日本経済史からみるインフルエンザ・パンデミック — 影響と対策
発表者：小堀聡
10 月 17 日 パンデミック第 20 回研究会
「マスク」が政治的イシューになるとき：日本における「反マスク派」の形成
発表者：池田さなえ (大手前大学総合文化学部)

- 11月14日 パンデミック第21回研究会
 コロナパンデミックが宗教空間に及ぼした影響—日本における仏教儀礼の変貌 発表者：リュウシュ・マルクス
 (京都女子大学)
- 12月12日 パンデミック第22回研究会
 Counter culture and Japanese computers: Utopia, and ideology from the1970s to the Corona-Pandemic
 発表者：Till Knautd
- 2023年
- 1月6日 パンデミック第23回研究会
 害虫化する人間—計算が現実を飲み込むとき 発表者：瀬戸口久久
- 2月13日 パンデミック第24回研究会
 何が彼らを殺したか—怒りと認識の十九世紀統計史 発表者：岡澤康浩

東方ユーラシア馬文化の研究 班長 諫早直人
 研究期間

2021年4月～2024年3月(2年目)

研究実施状況

2年目にあたる本年度は、対面とオンラインとの併用により、計10回の研究会を実施した。定例の研究会では、文化人類学の視点から「文化の伝播と植生」の問題について、考古学の視点から「紀元前1千年紀末の馬上戦闘武器の変化とその意義について」「古墳時代の金属製馬具と有機質製馬具」「中国古代の車馬と弓形器」の諸問題について、文献史学の視点から「新出漢簡にみる馬と飼料」について班員による研究報告があり、それぞれ活発な討論がおこなわれた。また、それらに加えてゲスト研究者を招へいし、「チンギス・カン祭祀と馬」「重装騎馬戦術と仏像の成立・東漸」「古墳時代の榛名山噴火と馬」の考古学的研究、「近畿古代牧研究の成果と課題」にかんするフィールド調査と文献史学の成果、「ポルトガルの再野生馬の生態と社会」にかんする動物学的研究の成果を講演してもらい、班員との間で議論をおこなうことにより、共同研究の視野を大きくひろげることができた。

研究班員

- 所内：向井佑介、岡村秀典、古松崇志、野原将揮、藤井律之
- 学内：吉井秀夫(文学研究科)、坂川幸祐(総合博物館)、大谷育恵(白眉センター)
- 学外：諫早直人(京都府立大学文学部)、中村大介(埼玉大学教養学部)、Joseph Ryan(岡山大学文明動態学研究所)、井上直樹(京都府立大学文学部)、石谷慎(京都府立大学文学部)、大平理紗(京都府立大学文学部)、伍雅涵(京都府立大学文学部)、森下章司(大手前大学文学部)、佐藤健太郎(関西大学博物館)、河野保博(立教大学文学部)、篠原徹(国立歴史民俗博物館)、青柳泰介(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)、片山健太郎(埼玉県立歴史と民俗の博物館)、妹尾裕介(滋賀県立琵琶湖博物館)、菊地大樹(蘭州大学歴史文化学院)、王含元(北京大学考古文博学院)、姜伊(四川大学歴史文化学院)

研究実施内容

2022年

- 5月27日 文化の伝播と植生—家畜と栽培植物をめぐって 発表者：篠原 徹
 (国立歴史民俗博物館・名誉教授)
- 6月10日 紀元前1千年紀末の馬上戦闘武器の変化とその意義について
 発表者：坂川幸祐(総合博物館)
- 6月24日 チンギス・カン祭祀と馬
 発表者：白石典之(新潟大学)
- 7月29日 近畿古代牧研究の成果と課題
 発表者：吉川敏子(奈良大学)
- 10月7日 古墳時代の金属製馬具と有機質製馬具
 発表者：片山健太郎
 (埼玉県立歴史と民俗の博物館)
- 10月21日 ポルトガルの再野生馬の生態と社会—ドローンによる空からの撮影でわかったこと 発表者：平田 聡
 (野生動物研究センター)
- 11月25日 重装騎馬戦術と仏像の成立・東漸—暴力の制御装置としての世界宗教

	発表者：桃崎祐輔（福岡大学）	大学グローバル地域文化学部）
12月9日	古墳時代の榛名山噴火と馬	研究実施内容
	発表者：右島和夫 （群馬県立歴史博物館）	2022年
2023年		4月9日 第二次世界大戦とジェンダー 発表者：林田敏子（奈良女子大学）
1月27日	新出漢簡に見える馬と飼料—懸泉漢簡と胡家草場漢簡	6月4日 第二次大戦は「反ファシズム戦争」だったのか？ 発表者：小関 隆
	発表者：藤井律之	7月30日 伝記叙述の可能性 発表者：藤原辰史
2月17日	中国古代の車馬と弓形器 発表者：石谷 慎（京都市立大学）	10月1日 第二次世界大戦は戦後音楽史をどう決定づけたか 発表者：岡田暁生（京都大学）
人物で見る第二次世界大戦	班長 林田敏子	11月26日 人物から歴史を見る：I. カーショール『ヒトラー』をめぐる考察 発表者：川喜田敦子（東京大学）
研究期間	2022年4月～2025年3月（1年目）	2023年
研究実施状況	2022年度は、対面とZoomを併用するハイブリッド形式で、2023年1月までに6回の例会を開催し、さらに2023年3月にもう1回が予定されている。第二次大戦という巨大にして複合的な研究対象にアプローチするため、そのうち3回を今日の研究状況についての検討と最新の成果の摂取に充て、第二次大戦の性格規定、人物研究の意義、芸術史の中の第二次大戦、といった大きなテーマをとりあげるとともに、2回は専門家によるゲスト報告で第二次大戦研究の最前線に触れた。2023年3月の例会が個々の班員の研究報告の初回となる。例会には、班員以外にも、学振PDや大学院生のような若手研究者が参加し、Zoomを通じて海外から議論に加わる者もある。	1月7日 戦時下の往復書簡：大叔父の足跡とアジア・太平洋戦争 発表者：石井美保（京都大学）
研究班員	所内：小関隆、岡田暁生、藤原辰史、瀬戸口明久、福家崇洋 学内：小野寺史郎（人間・環境学研究科）、駒込武（教育学研究科）、小山哲（文学研究科）、金澤周作（文学研究科） 学外：林田敏子（奈良女子大学大学院生活環境科学系）、中野耕太郎（東京大学大学院総合文化研究科）、小野容照（九州大学人文科学大学院歴史学部門）、浅井佑太（お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系）、橋本伸也（関西学院大学文学部）、久保昭博（関西学院大学文学部）、立石洋子（同志社	インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に 班長 手嶋英貴 研究期間 2022年4月～2025年3月（1年目） 研究実施状況 年度内に2回の班員ミーティング、9回の定例研究会、および1回の公開シンポジウムを開催した。定例研究会は、前半を「テキスト輪読」、後半を「研究報告」の二部で構成された。前半の部では『ヴァードウーラ・シュラウターストラ』第2章（新月満月祭）の3分の1程度まで読み進めた。班員が輪番制で和訳を提示し、そこから得られる知見を共有していった。後半の部では、とりわけ「循環的世界観」の形成過程の解明につながる研究報告を、班員および招聘講師が順に行った。研究会における成果の一部は、約100名が参加したシンポジウム「インド宗教文化における『循環』の思想と表象」（令和5年2月21日開催）で広く公表された。研究会、シンポジウムは、基本的に対面とオンライン双方で参加可能なハイブリッド形式で行われた。また集会の様子を録画し、後にYouTubeで公開した（限定公開）。

研究班員

所内：稲葉稜

学内：天野恭子（京都大学白眉センター）、横地優子（京都大学大学院文学研究科）、井狩彌介（京都大学）、藤井正人（京都大学）

学外：手嶋英貴（龍谷大学法学部）、高島淳（東京外国語大学）、中村史（小樽商科大学商学部）、梶原三恵子（東京大学大学院人文社会系研究科）、堂山英次郎（大阪大学大学院文学研究科）、西村直子（東北大学大学院文学研究科）、川村悠人（広島大学大学院人間社会科学研究科）、菊谷竜太（高野山大学文学部）、尾園絢一（東京大学大学院人文社会系研究科）、近藤隼人（筑波大学人文社会系）、大島智靖（東京大学死生学・応用倫理センター）、矢野道雄（京都産業大学）、井田克征（中央大学総合政策学部）、眞鍋智裕（北海道大学大学院文学研究院）、伊澤敦子（国際仏教学大学院大学附属図書館）、虫賀幹華（日本学術振興会 PD）、高橋健二（日本学術振興会 PD）、吉水清孝（財団法人東洋文庫）

研究実施内容

2022年

5月20日 インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に1

ヴィシュヌ信仰形成の諸相：初期のクリシュナとヴィシュヌの図像をめぐって
発表者：大木 舞
（京都大学大学院・日本学術振興会）

本研究班の趣旨および研究計画等について
司会：手嶋英貴（龍谷大学）

6月17日 インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に2

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.1.17-28」
（新月満月祭本祭日儀礼）

発表者：尾園絢一（広島大学大学院）
The ritual practice of animal sacrifice in pre-islamicate Zoroastrianism:

Comparing Old Iranian and Old Indic sources
発表者：Elia Joël Weber
（Freie Universität Berlin）

7月15日 インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に3

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.1.29-37」
（新月満月祭本祭日儀礼）

発表者：尾園絢一（広島大学大学院）
「スダナとマノーハラー」物語と「クシャとスダルシャナー」物語

9月30日 インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に4

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.1.38-2.4.2.5」
（新月満月祭本祭日儀礼）

発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
「śamyā についての一仮説」, 「パーシュバタ派の灰をめぐって」

10月1日 インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に5

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.1.38-2.4.2.5（つづき）」
（新月満月祭本祭日儀礼）
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）

『シヴァダルモッタラ』におけるブラーナ宇宙誌のシヴァ教的改変
発表者：横地優子（京都大学大学院）

11月18日 インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に6

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.2.6-32」
（新月満月祭本祭日・祭壇作り儀礼）

発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
『シヴァダルモッタラ』第7章の研究：シヴァ教における地獄観とその位置づけ

発表者：高橋健二（東京大学大学院）

2023 年

1 月20日 インドにおける「循環的存在論」の形成 — 祭祀思想から哲学への発展を中心に 7

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.2.6-32」
(新月満月祭の祭壇作りに関するブラーフマナ文献記述)

発表者：手嶋 英 (龍谷大学)

新月満月祭の祭壇作りに関するシュルバーストラの記述

発表者：手嶋英貴 (龍谷大学)

2 月17日 インドにおける「循環的存在論」の形成 — 祭祀思想から哲学への発展を中心に 8

古代後期の一神教伝統における循環論：歴史的な分析と比較考察

発表者：山城貢司 (東京大学)

先端科学技術研究センター)

祖霊祭の儀軌とマントラにみる祖霊観と命の循環経路

発表者：虫賀幹華 (京都大学)

大学院・日本学術振興会)

2 月21日 公開シンポジウム「インド宗教文化における『循環』の思想と表象」

導入解説

司会：手嶋英貴

(龍谷大学)

ヴィシュヌ信仰形成の諸相：初期のクリシュナとヴィシュヌの図像をめぐって

発表者：大木 舞

(京都大学大学院・日本学術振興会)

祖霊祭の儀軌とマントラにみる祖霊観と命の循環

発表者：虫賀幹華

(京都大学大学院・日本学術振興会)

シヴァ教における地獄観：『シヴァダルモッタラ』第7章の研究

発表者：高橋健二

(東京大学大学院)

古代後期の一神教伝統における循環論：歴史的な分析と比較考察

発表者：山城貢司

(東京大学先端科学技術

指定討論 1

研究センター)

コメンテーター

澤井義次 (天理大学)

指定討論 2

コメンテーター：横地優子

(京都大学大学院)

3 月17日 インドにおける「循環的存在論」の形成 — 祭祀思想から哲学への発展を中心に 9

「Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.2.6-32」
(新月満月祭祭日・祭壇作り儀礼関連ブラーフマナ文献・つづき)

発表者：手嶋英貴 (龍谷大学)

喉音による韻律復元に基づく『リグ・ヴェーダ』の詩人家系の特徴

発表者：塚越袖季

(東京大学大学院博士課程)

「語りえぬもの」を語る行為とその表現に関する学際的研究 — 禪の言葉と翻訳を中心課題として

班長 何 燕生

研究期間

2022年4月～2025年3月 (1年目)

研究実施状況

本年度は基本的に研究計画に沿って、研究活動を実施してきた。具体的には下記のとおりである。すべては人文研大会議室を会場に対面とリモートの両方によるハイブリット形式での開催である。

4月30日(土)、第一回研究会。班員による顔合わせ、自己紹介を行い、本研究班の主旨や年度計画を説明した。国内外から構成される班員42名が参加した。中国語の通訳は柳幹康氏(東京大)、肖琨氏。総合司会は何燕生班長。

6月25日(土)、第二回研究会。午前は『弁道話』の会読、午後は研究報告、四川大学周裕鍇氏、駒澤大学小川隆の二人の班員による近著紹介、発表が行われた。通訳は新潟大の土屋太祐氏、コメンテーターは東北大の齋藤智寛氏。司会は人文研所内班員古勝隆一氏。

10月1日(土)、第三回研究会。午前は『弁道話』の会読。午後は研究報告。東京大の末木文美士氏、

アリゾナ大の Wu Jiag 氏からそれぞれ報告を行った。コメンテーターは早稲田大の和田有希子氏、花園大の小川龍太氏。司会は Wittern 副班長、重田みち班員。

12月18日(日)、第四回研究会。午前は『弁道話』の会読、午後は研究報告。関西大の水野友晴氏、多摩美術大の安藤礼二氏による研究報告が行われた。コメンテーターは花園大の飯島孝良氏、東京大の末木文美士氏。司会は関西大の井上克人氏、人文研所内班員の古勝隆一氏。

2023年2月5日(日)、第五回研究会。午前は『弁道話』の会読、午後は研究報告。発表者は京都大の氣多雅子氏、京都大の出口康夫氏。コメンテーターは関西大の井上克人氏、チューリッヒ大のラジ・シュタイネック氏。司会は Wittern 副班長。なお、事情により、出口発表は次回へ延期。

当初は3月にも研究会を計画していたが、年度末のため、見送ることにした。

研究班員

所内：Christian Wittern, 古勝隆一

学内：上原麻有子(大学院文学研究科)、中村慎之介(大学院文学研究科)、一色大悟(人と社会の未来研究院)

学外：何燕生(郡山女子大学)、頼住光子(東京大学大学院人文社会系)、齋藤智寛(東北大学大学院文学研究科)、柳幹康(東京大学東洋学研究所)、浅見洋二(大阪大学大学院文学研究科)、土屋太祐(新潟大学経済学部)、余新星(東京大学大学院人文社会系)、小川隆(駒澤大学総合教育研究部)、石井清純(駒澤大学仏教学部)、角田泰隆(駒澤大学仏教学部)、安藤礼二(多摩美術大学美術学部)、飯島孝良(花園大学国際禅学研究所)、重田みち(京都芸術大学通信教育学部)、水野友晴(関西大学文学部)、和田有希子(早稲田大学)、小川太龍(花園大学)、早川敦(東北福祉大学)、ディティエ・ダヴァン(国文学研究資料館)、李家明(国際日本文化研究センター大学院)、今西智久(株式会社法蔵館)、周裕鍔(四川大学)、王頌(北京

大学)、呉根友(武漢大学)、龔雋(中山大学)、馮国棟(浙江大学)、李建欣(中国社会科学院)、江静(浙江工商大学)、蒋海怒(浙江理工大学)、ジャン=ノエル・ロベール(コレージュ・ド・フランス)、ベルナルフォール(コロンビア大学)、呉疆(アリゾナ大学)、ラジ・シュタイネック(チューリッヒ大学)、ゲレオン・コプフ(ルター大学)、スザナ・クボウチャコバ(マサリク大学)、林佩瑩(政治大学)、肖琨(暨南大学)、李瑄(四川大学)、張超(フランス国立高等研究実践学院)、沈庭(武漢大学)

研究実施内容

2022年

- 4月30日 共同研究禅研究班の発足にあたって共同研究班発足の趣旨および研究計画について 発表者：何 燕生
人文研における禅研究の歴史と本プロジェクトの位置づけ
発表者：Christian Wittern, 古勝隆一
- 6月25日 『辦道話』会読
発表者：何 燕生(郡山女子大学)
- 6月25日 研究発表
自著を語る—『石門文字禅校注』と禅語の特徴
発表者：周 裕鍔(四川大学)
司会：何 燕生
「語りえぬもの」を語る前に—中国禅宗の歴史的特徴 発表者：小川 隆
(駒澤大学総合教育研究部)
司会：古勝隆一
コメンテーター：Christian Wittern, 齋藤智寛(東北大学大学院文学研究科)
- 10月1日 『辦道話』会読
発表者：何 燕生(郡山女子大学)
- 10月1日 研究発表
日本中世禅の再検討—近著『禅の中世—仏教史の再構築を語る』
発表者：末木文美士

彙 報

- (東京大学名誉教授) 及ぶものであり、毛沢東時代の公安警察と暴力に関する集中的な討議が行われた。
- コメンテーター：和田有希子 所内：石川禎浩、都留俊太郎
- 学道人は誰なのか？—黄檗希運『伝心法要』における「学道人」の用法と意味 発表者：Jiang Wu 学外：周俊（東京大学社会科学研究所）、河野正（東京大学附属図書館アジア研究図書館開発部門）、鄭成（兵庫県立大学環境人間学部）、森川裕貴（関西学院大学文学部）、杜崎群傑（中央大学経済学部）、角崎信也（一般財団法人霞山会文化事業部）
- 12月18日 『辦道話』会読 研究実施内容
- 発表者：何 燕生（郡山女子大学） 2022年
- 12月18日 研究発表 12月10日 毛沢東時代の暴力とイデオロギー
- 鈴木大拙の「大地」と禅との関係性の考察 発表者：水野友晴 毛沢東の人民代表会議・人民代表大会
- 司会：井上克人（関西大学名誉教授） 観：暴力と民主・警戒と協調の狭間
- コメンテーター：飯島孝良 発表者：杜崎群傑
- (花園大学国際禅学研究所) (中央大学経済学部)
- 鈴木大拙の神秘主義・井筒俊彦の神秘主義 発表者：安藤礼二 特情とは何か：中国共産党の秘密工作と公安警察 発表者：周 俊
- 司会：古勝隆一 (東京大学社会科学研究所)
- コメンテーター：末木文美士 中華人民共和国成立初期の兵役・革命関係者と農業集団化運動
- (東京大学名誉教授) 発表者：丸田孝志
- 2023年 (広島大学人間社会科学研究所)
- 2月5日 『辦道話』会読 発表者：何 燕生 建国初期の若手党幹部の自己教育
- 2月5日 研究発表 西田幾多郎における哲学と禅仏教の関係 発表者：鄭 成
- 発表者：氣多雅子 (兵庫県立大学環境人間学部・環境人間学研究科)
- (京都大学名誉教授) 農業集団化時期、李翼事件をめぐる一考察 発表者：河野 正
- 司会：Christian Wittern (東京大学附属図書館)
- コメンテーター：井上克人 1957年「農村整風」をめぐる暴力とイデオロギー：「大躍進」の前奏、1957～58年 発表者：角崎信也
- (関西大学)名誉教授 (一般財団法人霞山会)
- 毛沢東体制と公安警察に関する歴史的考察 班長 周 俊 コメンテーター：石川禎浩
- 研究期間 司会：村上 衛、都留俊太郎、小野寺史郎（人間・環境学研究科）
- 2022年4月～2023年3月（単年）
- 研究実施状況
- 本研究班は、現代中国における毛沢東時代の公安警察と暴力に関する個別の事例研究を比較・統合し、体系的な理解へと繋げることを目的としている。本年度内には、班員全員が出席し、6つの報告が行われる研究会を開催した。この研究会は、約7時間に
- 科学的知識の共同性を支えるメディア実践に関する学際的研究 班長 河村 賢
- 研究期間

2022年4月～2023年3月（単年）

研究実施状況

2022年4月から休暇期間を除き月1回ペースで班員及び外部ゲストによる研究発表を行った。発表のテーマはアメリカのテロリズム研究における合理的行為者の概念、日本における除虫菊の栽培と産業化、反核映画における被爆者の身体表象、戯曲の脚本において理解可能となっている天才の概念のありようなど多岐にわたったが、それぞれの研究対象に関連する知識の生成と伝播において学術論文、映像データ、商業映画といったさまざまなメディアが果たした役割について、活発な議論が交わされた。6月と7月には近年刊行された科学史とメディア論にまたがる領域における重要な研究書である『X線と映画』『客観性』『ラボラトリー・ライフ』の翻訳者を招き、画像や映像が媒介した客観性の概念の歴史的变化について探究することと、具体的なラボにおける科学者のやりとりを分析することを、等しい視座から推し進める可能性について討議した。

研究班員

- 所内：岡澤康浩，瀬戸口明久
 学内：藤本大士（京都大学大学院教育学研究科・日本学術振興会）
 学外：河村賢（大阪大学社会技術共創研究センター），標葉隆馬（大阪大学社会技術共創研究センター），中尾麻伊香（広島大学大学院人間社会科学研究科），森下翔（大阪大学社会技術共創研究センター）

研究実施内容

2022年

- 4月27日 例会（オンライン）
 知識の歴史と知ることの歴史
 発表者：岡澤康浩
- 5月25日 例会（オンライン）
 我々がテロリストを理解しようとしていたとき：狂気・抑圧・合理性
 発表者：河村 賢（大阪大学）
- 6月18日 リサ・カートライト『X線と映画』合評会
 日本の医学界における映画活用の歴史
 発表者：藤本大士

（日本学術振興会／京都大学）

リサ・カートライト著『X線と映画医療映画の視覚文化史』

発表者：田中祐理子（神戸大学）

訳者リブライ

コメンテーター：望月由紀

（東都大学），長谷正人（早稲田大学）

7月24日 人文研アカデミー「実践としての科学

認識：『客観性』『ラボラトリー・ライフ』を読む」

『ラボラトリー・ライフ』紹介

発表者：金 信行（東京大学）

『客観性』紹介

発表者：瀬戸口明久（京都大学）

評者発表

発表者：前田泰樹（立教大学）

鈴木 舞（東京電機大学）

金 凡性（東京理科大学）

全体司会：森下 翔，岡澤康浩

9月28日 例会（オンライン）

機械化時代における音楽・科学・人間— 兼常清佐のピアノの実験

発表者：瀬戸口明久

10月26日 例会（オンライン）

Making Malformed Body: Discourse and Representation of Radiation Exposure in Kamei Fumio's Anti-Nuclear Documentary Film

発表者：中尾麻伊香（広島大学）

11月2日 特別研究会（対面）

天才であることの達成：戯曲『アマデウス』の会話分析

発表者：吉川侑輝（立教大学）

コメンテーター：岡田暁生

11月16日 例会（オンライン）

Modernisation and Insecticides: Japan as the World's Leading Grower and Exporter of Pyrethrum Flowers, 1880s-1950s

発表者：キリル・カルタシヨフ

（ヨーク大学（英国））

2023年

2月15日 例会(オンライン)

先端科学技術をめぐる ELSI/RRI 議題の
アセスメント実践と課題

発表者：標葉隆馬(大阪大学)
知識を問うことが〈賭け〉になるとき
— 科学コミュニケーションのなかの実
践的推論 発表者：河村 賢(大阪大学)
「ELSI/RRI 研究」を作りあげる：新し
い種類の研究者の存在様式の構築をめ
ぐって 発表者：森下 翔(大阪大学)

環境問題の社会的研究

班長 岩城卓二

研究期間

2020年4月～2023年3月(3年目)

研究実施状況

研究実施計画最終年度となる本年度は15回の研究会を開催し、ヒトの自然観、開発と自然災害の因果関係、生業と環境問題、公害・環境被害が社会問題化した以降の社会の対応等についての検討を深めるとともに、ヒトの生きる力が「近代化」が進行する過程でどのように変化していくのかについて、日本の近世から高度経済成長期までを中心に具体的な事例をふまえ、世界の諸国・諸地域の事例とも比較しながら検討した。2022年12月10日には、人文研アカデミーオンラインシンポジウム「山に生きる—なりわいと環境の歴史学」を開催し、日本近世における山を対象に、ヒトの環境への働きかけについて考えた。また尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズにおいて公害訴訟資料、国内博物館において環境展示の実態調査を計4回行い、公害被害がどのように資料化され、また伝えられているのかについて検討し、図録類をはじめ関係資料を収集した。

研究班員

所内：岩城卓二、石井美保、KNAUDT, Till, 小関隆、小堀聡、瀬戸口明久、直野章子、高木博志、平岡隆二、福家崇洋、藤原辰史

学内：Andrea Flores Urushima(京都大学東南アジア地域研究研究所)、石川登(京都大

学東南アジア地域研究研究所)、ERICSON Kjell David(京都大学学際融合教育研究推進センター)、米家泰作(京都大学文学研究科)、森口(土屋)由香(京都大学人間・環境学研究科)、山越言(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科)

学外：青木聡子(名古屋大学環境学研究科)、井黒忍(大谷大学)、池田さなえ(大手前大学国際日本学部)、板垣貴志(鳥根大学法文学部)、市川秀之(滋賀県立大学)、Holca Irina(東京大学大学院総合文化研究科)、岡安裕介(NPO法人京都アカデミア)、落合功(青山学院大学経済学部)、鎌谷かおる(立命館大学)、唐澤太輔(秋田公立美術大学大学院)、河野未央(尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ)、河島裕子(尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ)、斎藤幸平(東京大学大学院総合文化研究科)、Cyrian Pitteloud(EHESS(パリ))、佐野静代(同志社大学文学部)、関礼子(立教大学)、高久智広(関西大学文学部)、高槻泰郎(神戸大学経済経営研究所)、高橋美貴(東京農工大学)、武井弘一(琉球大学)、田中雅一(国際ファッション専門職大学)、友松夕香(愛知大学)、沼尻晃伸(立教大学)、朴美貞(立命館大学)、橋本道範(滋賀県立琵琶湖博物館)、松嶋健(広島大学大学院)、松村圭一郎(岡山大学大学院)、松本望(尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ)、木村あや(ハワイ大学社会学部)

研究実施内容

2022年

4月11日 近代御料林関係史料から見る近世日本の林野利用

発表者：池田さなえ(大手前大学)

4月25日 パシフィック・オイスターの環太平洋史—宮城県とワシントン州の種がき貿易を中心に

発表者：シェル・エリクソン

人 文 学 報

- (京都大学学祭センター・文学研究科)
 5月9日 近世の焼畑をめぐる社会関係と生業
 — 阿波国那賀郡木頭村を事例に
 発表者：町田 哲
 (鳴門教育大学教育学部)
- 5月23日 水の来し方行く末 — 伝承的世界観から環境を考える
 発表者：岡安裕介
 (京都大学国際高等教育院)
- 6月6日 神社合祀反対運動と南方マンダラ
 発表者：唐澤太輔
 (秋田公立美術大学大学院)
- 6月20日 「製塩」と「燃料」と「公害」
 発表者：落合 功
 (青山学院大学経済学部)
- 10月3日 1950-60年代日本農村における「生活」の改善とジェンダー
 発表者：岩島 史
 (京都大学大学院経済学研究科)
- 10月17日 Religion, Californian Counterculture and Ethno-Environmental Politics of Japanese Hippies, 1965-1989
 発表者：Till Knautd
- 10月31日 浜を買い支える人びと — 芦浜原発反対運動における「反原発きのこの会」の模索
 発表者：青木聡子
 (名古屋大学環境学研究科)
- 11月14日 感知されるものとその向こう 東電福島原発近隣地域における暮らしの感覚人類学
 発表者：酒井朋子
- 11月28日 〈生き方〉としての基地反対運動 — ジュゴンの里づくりと「貝を手渡す」平和運動
 発表者：比嘉理麻
 (沖縄国際大学総合文化学部)
- 12月5日 西アフリカにおけるエボラウイルス病の流行(2013-2016)を再考する — 陰謀論とアフリカ・スキーマー
 発表者：山越 言
 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)
- 12月10日 山に生きる
 柳田国男以前のこと — 日向国椎葉山
- に生きる人々 発表者：武井弘一
 (琉球大学国際地域創造学部)
 「ゴミ」から「資源」を拾う — 鉱山に生きる人々 発表者：岩城卓二
 司会：藤原辰史
- 12月19日 景観変化と社会：日本における「木材」の事例
 発表者：アンドレ百合フォレス漆間
 (京都精華大学人間環境デザインプログラム)
- 2023年
- 1月23日 日本産淡水魚消費論に向けて — 一四世紀から一六世紀の首都京都を対象として
 発表者：橋本道範
 (滋賀県立琵琶湖博物館)
- 1月30日 漬物の現代における変化：バイオエコノミーとあわいのはざままで
 発表者：木村あや
 (ハワイ大学社会学部)
- 近現代中国の制度とモデル 班長 村上 衛
 研究期間
 2020年4月～2023年3月(3年目)
 研究実施状況
 本年度は3年計画の最終年度にあたり、若手・中堅に加えてシニアの報告も行った。新型コロナウイルスの影響があったため、昨年度同様、原則としてオンラインと対面の併用で、計17回の研究会を行い、延べ638人の参加者を得た。新型コロナウイルスに関する規制緩和にともない、学内の班員を中心に対面参加者が大幅に増加し、議論が一層活発となった。またオンラインを併用したことにより、中国・韓国や国内各地から参加者を得、貴重なコメント・質問をいただくことができた。なお、本研究班と関連して、現代中国研究センターでは合評会を2回、講演会を1回開催し、人文研アカデミーでもその成果を公開した。
- 研究班員
 所内：村上衛、石川禎浩、籠谷直人、呉孟晋、谷雪妮、小堀聡、申晴、莊帆、丁麗瓊、都留俊太郎、平岡隆二、古松崇志、瞿艳丹

学内：小野寺史郎（人間・環境学研究科），太田出（人間・環境学研究科），木下慎梧（法学研究科），貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所），小島泰雄（人間・環境学研究科），小林篤史（東南アジア地域研究研究所），塩出浩之（文学研究科），鈴木秀光（法学研究科），高嶋航（文学研究科），秋田朝美（経済学研究科），巫靚（人間・環境学研究科），温秋穎（教育学研究科），関藝菫（文学研究科），呉舒平（法学研究科），黄偉軒（法学研究科），黄崢崢（人間・環境学研究科），徐璐（文学研究科），角屋敷直哉（人間・環境学研究科），田子晃矢（文学研究科），張子康（文学研究科），趙高（法学研究科），手代木さつき（文学研究科），比護遙（教育学研究科），彭皓（文学研究科），穆林（文学研究科），孟奇（文学研究科），葉勝（文学研究科），羅重妮（文学研究科），梁鎮海（文学研究科），岩井茂樹（京都大学），江田憲治（京都大学），林淑美（京都大学）

学外：殷晴（東京大学大学院人文社会系研究科），大坪慶之（三重大学教育学部），岡田悠希（大阪大学文学研究科），梶谷懐（神戸大学経済学研究科），片山剛（大阪大学），木越義則（名古屋大学経済学研究科），久保茉莉子（埼玉大学人文社会科学部），兒玉州平（山口大学経済学部），小林亮介（九州大学大学院比較社会文化研究院），塩谷哲史（筑波大学人文社会系），城山智子（東京大学経済学研究科），田口宏二郎（大阪大学文学研究科），谷川真一（神戸大学大学院国際文化学研究科），富澤芳重（鳥根大学教育学部），豊岡康史（信州大学人文学部），丸田孝志（広島大学大学院総合科学研究科），望月直人（琉球大学国際地域創造学部），柳静我（鳥取大学地域学部），鷺尾浩幸（北海道教育大学教育学部札幌校），团陽子（神戸大学大学院国際文化学研究科），井上徹（大阪市立大学），岩本真利絵（釧路公立大学経済学部），易星星

（兵庫県立大学国際商経学部），王艶文（京都府立大学文学研究科），岡本隆司（京都府立大学文学部），荻恵里子（京都府立大学大学院文学研究科），木村可奈子（滋賀県立大学人間文化学部），彭浩（大阪市立大学社会科学系研究院経済学研究科），堀地明（北九州市立大学外国語学部），石川亮太（立命館大学経営学部），上田貴子（近畿大学文芸学部），小野達哉（同志社大学），夏磊（早稲田大学経済学研究科），郭まいか（同志社大学グローバルスタディーズ研究科），郭夢壺（神奈川大学外国学研究科），加藤雄三（専修大学法学部），金丸裕一（立命館大学経済学部），蒲豊彦（京都橘大学文学部），川西孝男（関西学院大学総合政策研究科），菊池一隆（愛知学院大学文学部），久保田裕次（国士舘大学文学部），小堀慎悟（名古屋外国語大学），坂井田夕起子（愛知大学国際問題研究所），篠根拓人（慶應義塾大学経済学部），周俊（同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科），城地孝（同志社大学文学部），園田節子（立命館大学国際関係学部），瀧田豪（京都産業大学法学部），田中剛（帝京大学文学部），陳来幸（ノートルダム清心女子大学），土肥歩（同志社大学文学部），土居智典（長崎外国語大学外国語学部），豊嶋順揮（立命館大学文学部），根無新太郎（大阪学院大学法学部），箱田恵子（京都女子大学文学部），浜田直也（神戸女子大学），範麗雅（愛知大学），平井健介（甲南大学経済学部），細見和弘（立命館大学経済学部），三田剛史（明治大学商学部），宮内肇（立命館大学文学部），村尾進（天理大学国際学部），村田雄二郎（同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科），本野英一（早稲田大学政治経済学術院），森川裕貫（関西学院大学文学部），山崎岳（奈良大学文学部），山本一（立命館大学文学部），楊韜（仏教大学文学部），吉田建一郎（大阪経済大学経

- 济学部), 安東強 (中山大学歴史系), 王怡然 (浙江外国語学院), 王天馳 (北京大学), 蕭文遠 (中山大学歴史系), 陳姪媛 (中央研究院台湾史研究所), 陳瑤 (廈門大学歴史系), 彭鵬 (中国歴史研究院近代史研究所), 毛暎陽 (閩江学院歴史系), 楊峻懿 (蘇州大学・社会学院歴史系), Debin Ma (University of Oxford), 松村光庸, 李ハンキョル
- 研究実施内容
2022年
- 5月13日 中国明代における「祖制」の政治化—『明実録』を手がかりに
発表者: 岩本真利絵 (釧路公立大学)
コメンテーター: 新田元規 (徳島大学)
- 5月27日 「公法」と国際法の間—朱克敬『公法十一篇』(1880年)の司法に関する議論の検討
発表者: 望月直人 (琉球大学)
コメンテーター: 中井愛子 (大阪公立大学)
- 6月10日 重慶政府期における民間企業の労働力保全問題について—緩役と移動に着目して
発表者: 関 藝蓄 (文学研究科)
コメンテーター: 久保 亨 (信州大学)
- 6月24日 清末期蚕業留日学生と中国近代蚕糸業—蚕業から蚕学へ
発表者: 王 怡然 (人間・環境学研究科)
コメンテーター: 富澤芳亜 (鳥根大学)
- 7月1日 清代中後期における貨幣流通の考察—銭票を中心に
発表者: 任 雨晴 (文学研究科)
コメンテーター: 多賀良寛 (東北学院大学)
- 明代における浙江省船舶の廃止と開市船舶に関する論争について
発表者: 樊 慧慧 (文学研究科)
- 7月15日 清代後期北京の戒嚴体制と巡防・団防・練勇
発表者: 堀地 明 (北九州市立大学)
コメンテーター: 吉澤誠一郎 (東京大学)
- 10月7日 清末における在日女性知識人にみる諸相—何震と『天義』を中心に
発表者: 蔡 佑佳 (文学研究科)
コメンテーター: 須藤瑞代 (京都産業大学)
- 清末におけるミリタリズム思想の公式化の経緯について—学部をめぐる考察
発表者: 耿 皓楠 (文学研究科)
コメンテーター: 小野寺史郎 (人間・環境学研究科)
- 10月21日 20世紀中国文物の海外への流出とその意義—『國華』および『十三松堂日記』や『南湖東遊日記』等を主な手掛かりに
発表者: 範 麗雅 (愛知大学)
コメンテーター: 瞿 艶丹
- 11月4日 『問刑条例』から見る明代社会—一条文形成の過程とその背景から探る
発表者: 豊嶋順揮 (立命館大学)
コメンテーター: 加藤雄三 (専修大学)
- 11月18日 戦後台湾の社会における抽象絵画の展開—展覧会からみた「モデル」の構築について
発表者: 呉 孟晋
コメンテーター: 家永真幸 (東京女子大学)
- 12月2日 「五族共和」と非漢族の描写—清末民初の中国歴史教科書を中心に
発表者: 羅 亜妮 (文学研究科)
コメンテーター: 石川禎浩
- 12月16日 20世紀初頭の中国における非正規徴収について
発表者: 土居智典 (長崎外国語大学)
コメンテーター: 岩井茂樹

彙 報

2023 年

- 1 月27日 辛亥革命期までの孫文のアジア主義
 発表者：呉 舒平（法学研究科）
 コメンテーター：深町英夫（中央大学）
- 2 月10日 満洲事変直前の在満日本人社会と満蒙鉄道問題
 発表者：金子 豊（文学研究科）
 コメンテーター：塚瀬 進（長野大学）
- 2 月24日 満洲を生きた在華新聞人—盛京時報社の人々を中心に
 発表者：徐 璐（文学研究科）
 コメンテーター：河崎吉紀（同志社大学）
- 3 月3日 共産革命の前夜：廣東省南海縣郷村的権力與秩序（1945-1949）
 発表者：莊 帆
 コメンテーター：蒲 豊彦（京都橘大学）
- 3 月10日 『澳門記略』と「澳門図説」—「広東体制」の論理と空間
 発表者：村尾 進（天理大学）
 コメンテーター：豊岡康史（信州大学）

人の分類と人種化に関する国際比較研究

班長 竹沢泰子

研究期間

2020 年 4 月～2023 年 3 月（3 年目）

研究実施状況

本年度は、最終年度として成果公開のための出版打ち合わせなどを優先的に行なった。人間の「ちがひ」と差別についても、研究会を重ねた。『環太平洋地域における移動と人種』の英語版を作成するために、研究会を実施し、その結果、以下にあるように、Race and Migration in the Transpacific（田辺明生氏との共編）を Routledge から出版することができた（2023.1）。また遺伝子検査ビジネスに関する共同研究も、その成果を、Anthropological Sciences 特集号 Genetics, DTC, and Their Social

Implications が 2023.2 に出版される予定である。さらに人種と人種主義の可視性・不可視性については、Routledge から査読の上、出版が決まり、今年中に、Visibilities and Invisibilities of Race and Racism が Yasuko Takezawa, Faye V. Harrison, and Akio Tanabe eds.として出版される予定である。

研究班員

- 所内：竹沢泰子，石井美保，瀬戸口明久，ティル・クナウト
 学内：芹澤隆道（東南アジア地域研究研究所），山極壽一，松田素二（文学研究科），徳永悠（人間環境学研究科）
 学外：斎藤成也（国立遺伝学研究所），海部陽介（国立科学博物館人類研究部），田辺明生（東京大学文化人類学研究室），陳天爾（早稲田大学国際学術院），木村亮介（琉球大学医学研究科），関口寛（四国大学経営情報学部），長志珠絵（神戸大学国際文化学部研究科），太田博樹（東京大学大学院理学系研究科），John Russell（岐阜大学地域科学部）

研究実施内容

2022 年

- 4 月26日 人間の「ちがひ」と差別
 発表者：竹沢泰子
- 7 月10日 人文研アカデミー シンポジウム「東アジアの脱植民地化とジェンダー秩序——女性たちの経験と集合的記憶の再構築」
 於 人文科学研究所 本館大会議室
 詳細は、後段「事業概況」参照
- 7 月12日 日仏共同研究（オンライン）
 発表者：ジャン=フレデリック・ショブ
 竹沢泰子
- 7 月16日 人文研アカデミー 日仏共同研究出版記念シンポジウム『人種主義と反人種主義～越境と転換』（ハイブリッド）
 於 キャンパスプラザ京都
 詳細は、後段「事業概況」参照
- 7 月21日 人間の「ちがひ」と差別

人 文 学 報

発表者：海部洋介
小金測住江
竹沢泰子
10月30日 人文研アカデミー 講演会 ローラ・
喜納のアートとトーク「ウチナナン
チュのルーツを辿って」
於 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
詳細は、後段「事業概況」参照
11月11日 人間の「ちがひ」と差別
発表者：山極壽一
中谷文美
2023年
1月5日 人種と人種主義の可視性・不可視性
出版打ち合わせ：田辺明生
竹沢泰子

近代日本の宗教と文化 班長 高木博志

研究期間

2022年4月～2025年3月（1年目）

研究実施状況

2022年度は10回の研究班を開催し、報告は、歴史学・映画史・宗教史・音楽史・美術工芸史などの学際的な内容であった。そのうち9月には今尾文昭氏の案内で百舌鳥古墳群のフィールドワークをし世界遺産がかかえる問題や歴史的な変遷を考えた。10月には京都工芸繊維大学美術工芸資料館「デザイン
の夜明け：京都高等工芸学校初期10年」展、2023年3月には向日市文化資料館「寿岳文章と向日庵本の世界」を観覧し、研究会をもった。2023年2月11日には、「近現代天皇制を考える学術集会」をもち研究者・市民、110名の参加者を得た。初年度であるために「近代日本と宗教と文化」のテーマに関わる共同研究の可能性を多様な研究報告のなかで探っている。拠点経費は、すべてが招へい旅費で使っており、不足分は、科研費や分野経費で補っている。前回の共同研究「近代京都と文化」の研究成果として、『人文学報』120号を刊行したので、それをもとに研究班において批判的な検討を行った。

研究班員

所内：高木博志、福家崇洋、金智慧、林潔

学内：谷川穰（文学研究科）、田中智子（教育学

研究科）、木下千花（人間環境学研究科）、
駒込武（教育学研究科）

学外：福島榮寿（大谷大学文学部歴史学科）、青
江智洋（京都府立丹後郷土資料館）、齊藤
紅葉（国際日本文化研究センター）、並木
誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館）、
幡鎌一弘（天理大学文学部）、中川理（神
戸女子大学）、土田眞紀（同志社大学文学
部）、今尾文昭（関西大学文学部）、玉城
玲子（向日市文化資料館）、北野裕子（龍
谷大学経済学部）、松川綾子（奈良県立美
術館）、羽賀祥二（名古屋大学）、本康宏
史（金沢星稜大学経済学部）、北原かな子
（青森中央学院大学看護学部）、樋浦郷子
（国立歴史民俗博物館研究部）、富田美香
（国立映画アーカイブ）、ジョン・ブリー
ン John Breen（国際日本文化研究セン
ター）、兒山真生（金光図書館）、兒山陽
子（金光図書館）、國賀由美子（大谷大学
文学部歴史学科）、木立雅朗（立命館大学
文学部）

研究実施内容

2022年

- 5月28日 共同研究〈近代日本の宗教と文化〉に
ついて 附、金光教と遊廓
発表者：高木博志
明治40年から昭和10年までの金光教
に関わる上演 上映について事例報告
発表者：兒山陽子（金光図書館）
- 6月25日 尋常小学唱歌楽曲委員楠美恩三郎：東
北土族と洋楽受容発表者：北原かな子
（青森中央学院大学）
- 7月30日 黒川真頼・小杉樞郎と「日本美術史」
発表者：佐藤岳流（教育学研究科）
井伊家所蔵品の近代：公と私の狭間で
発表者：久坂明日香（文学研究科）
- 9月3日 百舌鳥古墳群と世界遺産を考えるフ
ィールドワーク：大山古墳・いたすけ
古墳ほか
発表者：今尾文昭（関西大学）
- 10月29日 福島榮寿さん「明治初期琉球における

- 真宗 — 布教活動と「第三次法難事件」をめぐって」
 発表者：福島榮寿（大谷大学）
- 11月13日 「デザイン之夜明け：京都高等工芸学校初期10年」展，展示解説
 発表者：並木誠士（京都工芸繊維大学）
- 11月26日 五条坂を掘る：近現代京焼登り窯の発掘調査と近現代文書の掘り起こしから
 発表者：木立雅朗（立命館大学）
- 12月24日 内山永久寺の虚像と実像
 発表者：幡鎌一弘（天理大学）
- 2023年
- 2月11日 近現代天皇制を考える学術集会 — 「建国記念の日」に問う
 「建国記念」の近現代史
 発表者：高木博志
 天皇の代替わりと映画
 発表者：紙屋牧子（玉川大学）
 「帝国日本」の学校儀式
 発表者：樋浦郷子（国立歴史民俗博物館研究部）
- 昭和戦前期の君民間コミュニケーション：地方行幸時の「御下問」行為に注目して
 発表者：佐々木政文（京都先端科学大学）
- 「不敬」のプリズム — 大川周明と〈紀元二千六百年〉
 発表者：福家崇洋
- ヨーロッパ史における君主政と共和政：王のいない共和政を展望するために
 発表者：小山 哲（文学研究科）
- 3月18日 特別展「寿岳文章と向日庵本の世界」解説
 発表者：玉城玲子（向日市文化資料館）
- 土田眞紀『柳宗悦と美』：語り手の位置
 発表者：中島俊郎
- 柳宗悦の「民芸」と朝鮮・木喰仏・京都・沖縄：土田眞紀『柳宗悦と美』とのかかわりで
 発表者：高木博志
- チベットにおけるコミュニケーションツールの研究 — 書簡文化の歴史の変遷と現代的意義
 班長 池田 巧
- 研究期間
 2022年4月～2026年3月（1年目）
- 研究実施状況
 チベット語の書簡について、班員の間で基本的な知識と認識を共有するべく概説的な紹介を含む報告を聞き、分野横断的な討論と検討を行なった。書簡に加えて多様な文書の書式についての研究報告もあり、それぞれのテーマごとに検討を加え、書かれた文書の地域的、時代的な諸特徴についての理解を深めた。チベット語の書簡の書式と内容についての資料のひとつに、青木文教が請求したチベット語の書簡の書き方についてのマニュアルの写本がある。この資料については、これまでに公式に出版されたことがなく、その内容についてもほとんど知られていない。この写本を撮影した写真版に基づき、会読を行うための校本を作成するべくチベット文字の入力を依頼し、デジタルテキストの作成に着手した。また定例の研究集会を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、班員各位の先端的な研究成果の報告のほか、ゲストスピーカーから最新の研究報告を聞く機会を得た。
- 研究班員
 所内：池田巧，西田愛，中西竜也，稲葉稜
 学内：井内真帆（白眉センター・文学部）
 学外：星泉（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所），根本裕史（広島大学大学院文学研究科），海老原志穂（東京外国語大学・日本学術振興会），山本達也（静岡大学人文社会科学部），小林亮介（九州大学比較社会文化研究院），岩田啓介（筑波大学人文社会系），長岡慶（東京大学・日本学術振興会），岩尾一史（龍谷大学文学部），大川謙作（日本大学文理学部），別所裕介（駒沢大学総合教育研究部），山本明志（大阪国際大学経営経済学部），小西賢吾（金沢星稜大学人文学部），小野田俊蔵（佛教大学），三宅伸一郎（大谷大学），小松原ゆり（明治大学文学部），村上大輔（駿

- 河台大学現代文化学部), 加納和雄 (駒澤大学仏教学部), 池尻陽子 (関西大学文学部), 旗手瞳 (龍谷大学・日本学術振興会), ガザンジェ (東洋文庫・日本学術振興会)
- 研究実施内容
- 2022 年
- 4 月15日 アリアヌス・マクドナルド著『古代チベットの王権論とソンツェン・ガンポの宗教』の再検討 発表者: 今枝由郎 (CNRS / 京都大学)
- 5 月21日 チベットにおける書簡の発展史 発表者: ドルジェ・ツェテン (青海民族大学)
- 『チベット幻想奇譚』を読む 発表者: 星 泉 海老原志穂 三浦順子
- 6 月18日 30 年前の設問に対して提出されてきた解答例 — 右筆弟子による聞き書き著述と推敲作業が起こす齟齬 発表者: 小野田俊蔵
- タワンにおける環境運動とデジタルメディア — グライ・ラマ六世の詩と現代の交錯 発表者: 長岡 慶
- 10 月22日 古代チベットにおける手紙文化とその広がり 発表者: 岩尾一史
- 11 月19日 Transmission on Tibetan among the Tangut 発表者: Kirill Solonin (中国人民大学)
- 12 月17日 トリン寺仏塔から発見された古文書について 発表者: 旗手 瞳
- 民族走廊と羌族の社会文化 — 建築を例として 発表者: 張 曦 (中央民族大学)
- 2023 年
- 3 月 4 日 Tibetan Studies in Japan Foundational Bases of Tibetan Studies in Japan 発表者: ONODA Shunzō (小野田俊蔵)
- Japanese Research on Post-Imperial Tibet: Medieval Tibet and the History of Buddhism 発表者: IUCHI Maho (井内真帆)
- The Rising Sun of the Great Perfection: rDzogs chen Studies in Japan 発表者: Marc-Henri DEROCHE
- From Kokka-taikan 国歌大観 to OTDO (Old Tibetan Documents Online) 発表者: IMAEDA Yoshiro (今枝由郎) (CNRS / 京都大学)
- Historical studies of the Old Tibetan Empire in Japan and Its Features 発表者: IWAO Kazushi (岩尾一史)
- 3 月 5 日 Tibetan Studies in Japan Historical Studies of Qing Dynasty Relationship with Tibet in Japan 発表者: KOMATSUBARA Yuri (小松原ゆり)
- Contemporary Japanese Research Trends in Early-Twentieth-Century Japan-Tibet Relations 発表者: KOBAYASHI Ryosuke (小林亮介)
- Modern Tibetan Studies in Japan: Anthropology, Social History, and Political Science 発表者: OKAWA Kensaku (大川謙作)
- Tibetan Linguistics in Japan and Its Historical Developments 発表者: EBIHARA Shiho (海老原志穂)
- Around Tibetology in Japan: From the Perspective of Exploration and Journalism 発表者: IKEDA Takumi (池田巧)
- 帝国日本の「財界」形成についての研究: 1895 年-1945 年 班長 籠谷直人
- 研究期間 2018 年 4 月~2023 年 3 月 (5 年目)
- 研究実施状況

本研究班は、三好通弘氏（祇園辻利会長（2019年逝去））のインタビュー記録を主な成果として取りまとめ、出版・公開する方向で研究を実施している。本年度の前半は、過去におこなったインタビュー記録の整理、年表の作成、写真の整理等をすすめた。途中で研究代表者がコロナウイルスに感染して入院したことで、2022年1月はじめまでの研究班の例会の開催は停滞してしまった。しかし、日台間の移動が解禁されたこともあり、2023年1月から2月にかけて、台湾の研究機関に所属する班員のオンライン参加もえて、計四回の例会を開催することができた。特に、三好登美子夫人、株式会社祇園辻利の安田益弘氏に対するインタビューを実施したことで、三好通弘氏にかんする記述を十分に補足する見通しを得た。すでに補足インタビューの記録の整理は完了しており、再度のインタビューのスケジュールを調整するとともに、完成原稿の作成につとめている。

研究班員

所内：籠谷直人、都留俊太郎

学外：鍾淑敏（中央研究院・台湾史研究所）

研究実施内容

2023年

- 1月28日 植民地期台湾経済と戦後京都経済発展
帝国日本の「財界」形成をめぐる諸論
点 発表者：籠谷直人
- 2月5日 植民地期台湾経済と戦後京都経済発展
台湾の「財界」研究の回顧と展望
発表者：都留俊太郎
- 2月9日 植民地期台湾経済と戦後京都経済発展
台湾と日本の「財界」関係史
発表者：鍾淑敏
（中央研究院台湾史研究所）
- 2月11日 植民地期台湾経済と戦後京都経済発展
故・三好通弘氏の足跡にかんするイン
タビュー 発表者：籠谷直人

前近代ユーラシア東方の戦争と外交

班長 古松崇志

研究期間

2018年4月～2023年3月（5年目）

研究実施状況

研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。14回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない、『中華再造善本』所収の中国国家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻十九から巻二十二までを読み終えた。前年度にひきつづきオンライン会議の形式で開催した。また、共同研究班の活動に関連して、9月から10月にかけて4週連続で人文研アカデミー2022オンライン連続セミナー「草原と中華のあいだ—北方王朝（遼・金・元）の興起とユーラシア東方」を開催し、班員の古松崇志・藤原崇人・渡辺健哉・飯山知保の四名が講演をおこなった。

研究班員

所内：古松崇志、岩井茂樹、矢木毅、村上衛、高井たかね、毛利英介

学内：福谷彬（京都大学人間環境学研究所）

学外：飯山知保（早稲田大学文学学術院）、井黒忍（大谷大学文学部）、伊藤一馬（大阪大学大学院文学研究科）、岩本真利絵（釧路公立大学）、遠藤総史（名古屋大学大学院文学研究科）、小野達哉（同志社大学文学部）、加藤雄三（専修大学法学部）、木村可奈子（滋賀県立大学人間文化学部）、小林隆道（神戸女学院大学文学部）、齊藤茂雄（帝京大学文化財研究所）、承志（追手門学院大学基盤教育機構）、城地孝（同志社大学文学部）、武田和哉（大谷大学社会学部）、橋本雄（北海道大学文学研究科）、濱野亮介（大谷大学文学部）、藤本猛（京都女子大学文学部）、藤原崇人（籠谷大学文学部）、船田善之（広島大学人間社会科学部）、古畑徹（金沢大学人間社会科学研究域）、水越知（関西学院大学文学部）、渡辺健哉（大阪公立大学文学研究科）

研究実施内容

2022年

4月12日 『三朝北盟会編』巻十九会読

発表者：濱野亮介

人 文 学 報

- 4月26日 『三朝北盟会編』 卷十九会読
発表者：高井たかね
- 5月10日 『三朝北盟会編』 卷十九会読
発表者：藤原崇人
- 5月24日 『三朝北盟会編』 卷十九会読
発表者：武田和哉
- 6月14日 『三朝北盟会編』 卷二十会読
発表者：古松崇志
- 6月28日 『三朝北盟会編』 卷二十会読
発表者：矢木 毅
- 7月12日 『三朝北盟会編』 卷二十会読
発表者：飯山知保
- 10月18日 『三朝北盟会編』 卷二十一会読
発表者：毛利英介
- 11月1日 『三朝北盟会編』 卷二十一会読
発表者：伊藤一馬
- 11月22日 『三朝北盟会編』 卷二十一会読
発表者：藤本 猛
- 12月6日 『三朝北盟会編』 卷二十一会読
発表者：小野達哉
- 12月20日 『三朝北盟会編』 卷二十二会読
発表者：水越 知
- 2023年
- 1月10日 『三朝北盟会編』 卷二十二会読
発表者：岩本真利絵
- 2月7日 『三朝北盟会編』 卷二十二会読
発表者：船田善之

前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会

班長 稲葉 稜

研究期間

2019年4月～2023年3月（4年目（延長））

研究実施状況

一年間の延長期間を利用し、ペルシア語地方史『ヘラート史』の訳注の再検討を進めた。これは来年度中に公開予定の日本語訳注の作成のための作業でもあるが、再度の会読の効果として以前は不明であった韻文の解釈が可能になり、新たな関連情報が発見されるなど、翻訳、注釈ともに精度をあげることができた。また、12月にはほぼ3年ぶりに海外からの講師アーリフ・ナウシャヒー氏（元ゴード

ン・カレッジ教授）を迎え、ナクシュバンディー教団の高名なシャイフ、ホージャ・アフラルの伝記史料の校訂とそれに関わる諸問題についての講演をハイブリッド形式で開催し、活発な議論を行うことができた。

研究班員

所内：稲葉 稜、船山徹、稲本泰生、中西竜也、檜山智美、Erika Forte、慶昭蓉

学内：帯谷知可（東南アジア地域研究研究所）、角田哲朗（文学研究科）、大津谷馨（文学研究科）、今松泰（アジア・アフリカ地域研究研究科）、磯貝健一（文学研究科）、井谷鋼造（京都大学）、吉田豊（京都大学）

学外：宮本亮一（東京大学アジア研究図書館）、和田郁子（岡山大学社会文化科学研究科）、真下裕之（神戸大学人文学研究科）、伊藤隆郎（神戸大学人文学研究科）、影山悦子（名古屋大学人文学研究科）、小倉智史（東京外国語大学）、内記理（愛知県立大学）、川本正知（奈良大学文学部）、入澤崇（龍谷大学）、岩井俊平（龍谷大学龍谷ミュージアム）、杉山雅樹（京都外国語大学）、小野浩（京都橋大学）、森山央（同志社大学神学部）、井上陽（相愛大学）、上枝いづみ（龍谷大学）

研究実施内容

2022年

4月8日 ヘラート史会読 発表者：稲葉 稜

4月22日 ヘラート史会読

発表者：稲葉 稜、杉山雅樹（京都外国語大学）

5月13日 ヘラート史会読

発表者：杉山雅樹（京都外国語大学）

5月27日 研究報告

2020年2月パキスタン調査報告

発表者：小倉智史（東京外国語大学）
バクトリア語史料と中央アジア史

発表者：宮本亮一（東京大学アジア研究図書館）

6月10日 ヘラート史訳文の再検討

発表者：稲葉 稜、他

- 7月8日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 10月14日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 11月11日 研究報告 ハラム文書研究とエルサレム訪問（2022年9月）
発表者：川本正知（奈良大学）
- 11月25日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 12月9日 特別講演 ゴードン・カレッジ ホージャ・ウバイドゥッラー・アフラルの伝記
発表者：Arif Naushahi
- 2023年
- 1月27日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 2月10日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 2月24日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 3月10日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他
- 3月24日 ヘラート史訳文の再検討
発表者：稲葉 稔，他

20世紀中国史の資料的復元 班長 石川禎浩
研究期間

2019年4月～2024年3月（4年目）

研究実施状況

隔週金曜午後に研究班例会を開催することを中心に活動を進めた。班員は62名、毎回の研究班例会の平均出席者数は29名であった。昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大のため、ハイフレックス方式による開催となったが、幸い平常時と同様の規模・質を維持することができた。特にオンライン参加が可能であることをいかして、東京や中国で活躍する複数の研究者による積極的な参加を得ることができた。年度内の例会開催回数は16回を数え、毎回事前にレジュメを班員に配布し、またコメントーターをつけて、専門の見地から議論を深められるよう工夫した。

本年度は四年目にあたり、研究班の課題である

「資料的復元」に対する班員の理解は十分に深まった。例会における議論も、各班員の専門知識と班員間の対話・協働にもとづいた、濃密なものとなった。研究班の成果をまとめる論文集の公刊に向けて、十分な作業を進めることができた。

研究班員

所内：石川禎浩，瞿艷丹，吳孟晋，申晴，莊帆，都留俊太郎，丁麗瓊，福家崇洋，村上衛，楊奎松，李皓，谷雪妮，貴志俊彦

学内：江田憲治（京都大学人間・環境学研究所），太田出（京都大学人間・環境学研究所），小野寺史郎（京都大学人間・環境学研究所），温秋穎（京都大学教育学研究所），関藝蕾（京都大学文学研究科），蔡佑佳（京都大学文学研究科），施顯昱（京都大学文学研究科），徐璐（京都大学文学研究科），張子康（京都大学文学研究科），津守陽（京都大学人間・環境学研究所），程天德（京都大学人間・環境学研究所），手代木さづき（京都大学文学研究科），中島大知（京都大学文学研究科），羅亜妮（京都大学文学研究科），秋田朝美（京都大学経済学研究所），高嶋航（京都大学文学研究科），比護遙（京都大学教育学研究所），楊陸（京都大学人間・環境学研究所），李義成（京都大学人間・環境学研究所）

学外：岡野（葉）翔太（大阪大学レーザー科学研究所），韓燕麗（東京大学総合文化研究科），田中仁（大阪大学法学研究科），谷川真一（神戸大学国際文化化学研究科），中村元哉（東京大学教養学部），丸田孝志（広島大学総合科学研究科），水羽信男（広島大学総合科学研究科），林礼釗（大阪大学人間科学研究科），アルス（大阪大学人文学研究科），鄭成（兵庫県立大学環境人間学研究所），郭夢垚（神奈川大学外国語学研究所），蒲豊彦（京都橋大学），菊池一隆（愛知学院大学），小堀慎悟（名古屋外国語大学），島田美和（慶応大学法学部），周俊（同志社大学グローバルスタディーズ研究科），瀬戸宏（摂南大学），瀬辺啓子（佛教大学）

- 文学部), 土肥歩 (同志社大学文学部), 三田剛史 (明治大学商学部), 宮内肇 (立命館大学文学部), 森川裕貫 (関西学院大学文学部), 山崎岳 (奈良大学文学部), 楊韜 (佛教大学文学部), 和田英男 (近畿大学), 郭まいか (日本学術振興会), 団陽子 (日本学術振興会), 範麗雅 (語学専門学校勤務), 呉世平 (中国・復旦大学歴史学系), 鄒燦 (中国・南開大学歴史学院)
- 発表者: 福家崇洋
 コメンテーター: 武藤秀太郎
 (新潟大学教育研究院)
- 9月30日 盛政権初期における国民政府の統合戦略: 新疆の振興計画と回民補習班の実態をめぐる考察 発表者: 程 天徳
 (京都大学人間・環境学研究科)
 コメンテーター: 王 柯
 (神戸大学国際文化学研究所)
- 10月14日 近代中国における植物学資料の整理と出版: 『植物名実図考』を中心に
 発表者: 瞿 艶丹
 コメンテーター: 真柳 誠
 (茨城大学人文科学研究科)
- 10月28日 戦後日本華僑史の基礎資料としての『華僑報』と『自由新聞』: その利用と課題 発表者: 岡野翔太
 (大阪大学レーザー科学研究科)
 コメンテーター: 陳 來幸
 (ノートルダム清心女子大学文学部)
- 11月11日 第一次世界大戦の歴史的意味: 梁啓超らの「欧戦」認識を中心として
 発表者: 高柳信夫
 (学習院大学外国語教育研究センター)
 コメンテーター: 森川裕貫
 (関西学院大学文学部)
- 11月25日 馮自由と民国初年の臨時稽勳局: その革命史著述への影響
 発表者: 土肥 歩
 (同志社大学文学部)
 コメンテーター: 高嶋 航
 (京都大学文学研究科)
- 12月9日 “郷土文学”を読みたがったのは誰か: 文芸誌の書評欄から探る
 発表者: 津守 陽
 (京都大学人間・環境学研究科)
 コメンテーター: 鈴木将久
 (東京大学人文社会系研究科)
- 2022年
- 4月15日 ラテン化新文字運動史の資料的復元: 倪海曙による編纂作業を手がかりとして
 発表者: 都留俊太郎
 コメンテーター: 温 秋穎
 (京都大学教育学研究科)
- 4月22日 開明書店版『曹禺選集』(1951年)収録『雷雨』の諸問題: 人民共和国建国直後知識人の精神形態
 発表者: 瀬戸 宏
 (摂南大学)
 コメンテーター: 比護 遥
 (京都大学教育学研究科)
- 5月20日 戦前日本の中国語学習誌: 中国語教育—中国語界を読み解く基礎資料として
 発表者: 温 秋穎
 (京都大学教育学研究科)
 コメンテーター: 小野寺史郎
 (京都大学人間・環境学研究科)
- 6月3日 「中国人民は立ち上がった」に関する若干の考察: 「人民」定義の変遷とともに
 発表者: 和田英男 (近畿大学)
 コメンテーター: 中原 綾
 (東京大学人文社会系研究科)
- 6月17日 広東農民運動期中国共産党の党内通信と文書の性格: 海陸豊及び東江を中心として
 発表者: 蒲 豊彦
 (京都橋大学)
 コメンテーター: 江田憲治
 (京都大学)
- 7月8日 山東出兵前後における無産政党

彙 報

	発表者：丁 麗瓊 コメンテーター：鄭 成 (兵庫県立大学環境人間学研究科)	崎直樹 (関西大学外国語学部), 二階堂善弘 (関西大学文学部), 師茂樹 (花園大学文学部)
2月3日	1950年代中国農村の離婚問題：離婚裁判史料からみる女性と社会 発表者：鄭 浩瀾 (慶應義塾大学総合政策学部) コメンテーター：手代木さづき (京都大学文学研究科)	研究実施内容 2022年 4月15日 Universal Dependencies におけるAUXの扱い 5月20日 新釈漢文大系『日本漢詩』 6月3日 新釈漢文大系『日本漢詩』Editor 開発 6月17日 Transformers の Question Answering を用いた係り受け解析器 7月1日 『古漢語詞義注語料庫の構建及应用研究』 7月15日 新釈漢文大系『戦国策』 7月29日 東洋学へのコンピュータ利用 第35回研究セミナー 低品質文字画像を用いた高精細画像からの字形自動再切り出しの試み 発表者：守岡知彦 9月16日 nsubj: outer と csubj: outer の追加 9月30日 roberta-classical-chinese-base-ud-goes-with による句間リンク抽出 10月21日 roberta-classical-chinese-base-ud-goes-with による句間リンク抽出 11月4日 roberta-classical-chinese-base-ud-goes-with による句間リンク抽出 11月18日 Universal Dependencies 2.11 リリース 12月2日 「第4回 InDi 學術大會」報告 12月16日 roberta-classical-chinese-base-ud-goes-with の解析手法を他の言語に応用する
2月17日	現代中国政治の転換と農村幹部：河北省邢台県の事例 発表者：田中 仁 (大阪大学法学研究科) コメンテーター：都留俊太郎	
3月17日	羅振玉の古器物学に関する再検討：日本の学者との関係をめぐって 発表者：莊 帆 コメンテーター：呉 孟晋	
古典中国語のコーパスの研究 班長 安岡孝一		
研究期間 2020年4月～2023年3月(3年目)		
研究実施状況 古典中国語(漢文) Universal Dependencies を検討しつつ、実際にコーパス化をおこなった。具体的には、新釈漢文大系『日本漢詩』『戦国策』『背説新語』を検討対象とし、順次コーパス化をおこなった。また、これらのコーパスのうち、検討が終了したものから、Universal Dependencies 2.10 ならびに Universal Dependencies 2.11 として、カレル大学 LINDAT/CLARIN と共同で WWW 公開した。 古典中国語係り受け解析アルゴリズムとしては、従来の Biaffine 法に加え、Question Answering を用いる手法や、goeswith リンクによる手法に挑戦した。特に goeswith リンクによる手法は、古典中国語のみならず、他の孤立語(ベトナム語やタイ語)にも応用可能であり、手法としての広がりが大きそうである。		
研究班員 所内：安岡孝一, 池田巧, Christian Wittern, 守岡知彦, 白須裕之 学外：鈴木慎吾(大阪大学言語文化研究科), 山		
北朝石窟寺院の研究Ⅱ 班長 岡村秀典		
研究期間 2020年4月～2023年3月(3年目)		
研究実施状況 今年度は研究班の最終年度にあたるため、東方文化研究所が1938～1944年に中国山西省大同市雲岡石窟で調査した人文研所蔵ガラス乾板の写真と拓本、		
2023年 1月20日 共同研究班まとめ		

原報告（水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全16巻，1951-56）と新報告（京大人文研・中国社会科学院考古研究所編『雲岡石窟』全4巻，2017），現地の雲岡石窟研究院などが新たに調査報告した資料など，雲岡石窟における北魏から遼金までの石刻を網羅的に集成し，釈文・語注・解説を加えた倉本尚徳主編「雲岡石刻録—『雲岡金石録』改訂版」を『東方学報』京都第97冊に発表した。また，招へい研究員として来所されたイ・リドゥ先生（フロリダ国際大学）に人文研国際研究ミーティングとして6月21日に「從《大吉義神咒經》對石窟功能的再思考」，7月5日に「對山東青齊地區窟龕造像及題記的再思考」，7月19日に「對平城墓葬中佛教題材的思考—以邢合姜墓壁畫為例」と題する連続講演会を実施した。その成果論文は来年度の『東方学報』に発表される予定である。

研究班員

所内：岡村秀典，稲本泰生，安岡孝一，フォルテ・エリカ，倉本尚徳，向井佑介，佐藤智水，高志緑

学内：内記理（文化財総合研究センター），檜山智美（白眉センター），富岡采花（文学研究科）

学外：外山潔（泉屋博古館），齋藤龍一（大阪市立美術館），山名伸生（京都精華大・総合人文学部），大西磨希子（佛教大・仏教学部），石松日奈子（東京国立博物館），濱田瑞美（横浜美術大），北村一仁（河南農業大），篠原典生（中央大・総合政策学部），田林啓（白鶴美術館），高橋早紀子（愛知学院大・文），苫名悠（大阪大谷大・文），呉虹（復旦大学・哲学学院），アヴァンツイ・カルロッタ（秋田県立大），王珉人（京都国立博物館），上枝いづみ（金沢大学・人間社会研究域），黄盼（中国社会科学院・考古研究所），常钰熙（北京大学・考古文博学院），打本和音（京都芸術大学）

研究実施内容

2022年

4月5日 雲岡石刻録 発表者：倉本尚徳

4月19日 雲岡石刻録 発表者：倉本尚徳
 5月17日 雲岡石刻録 発表者：倉本尚徳
 6月7日 雲岡石刻録 発表者：倉本尚徳
 6月21日 從《大吉義神咒經》對石窟功能的再思考 発表者：Lidu YI
 7月5日 對山東青齊地區窟龕造像及題記的再思考 発表者：Lidu YI
 6月21日 對平城墓葬中佛教題材的思考—以邢合姜墓壁畫為例 発表者：Lidu YI

芸術と社会—近代における創造活動の諸相

班長 高階絵里加

研究期間

2020年4月～2024年3月（3年目）

研究実施状況

1年間の延長が認められたため4年計画の第3年目となった本年は，計8回の研究会を開催した。内容は以下の通りである。「初期の文部省美術展覧会と社会」「セザンヌと社会」「近代絵画における「引っ掻き」」「近代日本におけるベルギー美術の受容について」「ドキュメント再考」「映画評論家としての戦後知識人，戦後知識人としての映画評論家」「フランス美術の「伝統」について—包括と排除」「表装界が迎えた近代」。近現代の東京，京都，フランス，ベルギー等における芸術的創造行為と社会状況のさまざまな影響関係や変化の様相について，実証的且つ新知見をもたらす報告が行われた。いずれの研究会においても，発表後に芸術と社会に関わる活発な議論が交わされた。

研究班員

所内：高階絵里加，岡田暁生，小関隆，高木博志，立木康介，福家崇洋，藤原辰史，森本淳生，藤野志織，呉孟晋，金智慧

学外：小川佐和子（北海道大学大学院文学研究科），久保豊（富山大学），多田羅多起子（広島大学大学院人間社会科学研究科／教育学部造形芸術系コース），永井隆則（京都工芸繊維大学），イリナ・ホルカ（東京大学大学院総合文化研究科国際日本教育研究機構），三宅拓也（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系），宮下規久朗（神戸

大学大学院人文学研究科), 池田さなえ (大手前大学総合文化学部), 花田史彦 (立命館大学産業社会学部), 植田憲司 (京都経済短期大学), 大久保恭子 (京都橘大学 発達教育学部), 國賀由美子 (大谷大学文学部), 竹内幸絵 (同志社大学), 河本真理 (日本女子大学), 久保昭博 (関西学院大学), 有賀茜 (京都府京都文化博物館), 植田彩芳子 (京都府京都文化博物館), 大原由佳子 (文化庁文化財第一課), 清水智世 (京都府京都文化博物館), 中野慎之 (文化庁文化財第一課文部科学), 林洋子 (文化庁), 藤本真名美 (和歌山県立近代美術館), 森光彦 (京都市美術館), 山口真有香 (滋賀県立美術館), 山田真規子 (目黒区美術館), 郷司泰仁 (香雪美術館), 小嶋ひろみ ((公益財団法人) 両備文化振興財団 夢二郷土美術館), 実方葉子 (泉屋博古館), 柴田就平 (笠岡市竹喬美術館), 鈴木千栄子 (毎日放送), 孝岡睦子 (大原美術館), 高階秀爾 (大原美術館), 竹嶋康平 (泉屋博古館), 古田理子 (高島屋史料館), 松原史 (北野天満宮北野文化研究所), VOLK, Alicia (アリサ・ヴォルク) (University of Maryland (メリーランド大学)), 藤井俊之

研究実施内容

2022年

- 5月14日 初期の文部省美術展覧会と社会
発表者: 高階絵里加
- 6月25日 セザンヌと社会
発表者: 永井隆則 (京都工芸繊維大学)
- 7月30日 近代絵画における「引っ掻き」
発表者: 孝岡睦子 (大原美術館)
- 9月3日 近代日本におけるベルギー美術の受容について
発表者: 山田真規子 (目黒区美術館)
- 10月22日 ドキュメント再考—アンドレ・ブルトンの「ありのまま」の作品を手がかりとして
発表者: 藤野志織
- 11月12日 映画評論家としての戦後知識人, 戦後

知識人としての映画評論家: 新しい日本映画思想史のために

発表者: 花田史彦 (立命館大学他)

- 12月17日 フランス美術の「伝統」—包括と排除
発表者: 大久保恭子 (京都橘大学)

2023年

- 1月28日 表装界が迎えた近代: 京都表具業組合誌『美潢界』を読む
発表者: 多田羅多起子 (広島大学)

中国在家の仏教観: 唐道宣撰『広弘明集』を読む

班長 船山 徹

研究期間

2020年4月~2024年3月(3年目)

研究実施状況

共同研究班名の通り中国中世の在家仏教徒に焦点を当て、在家者が抱えている仏教とは何か、仏教のいかなる部分を必要としていたかを探る文献会読を16回行った。具体的には唐の道宣撰『広弘明集』巻十九と巻二十に収める六朝時代の南朝貴族が書いた仏教文献を対象として取り上げ、その原文校訂と現代語訳と原文用語についての語注を作成した。最終的結論を示すことは時期尚早であるので言明を控えるが、現時点でわかった事柄及び恐らく結論として言えそうな感触を抱く事柄は既に幾つか蓄積することができている。例えば第一に、在家者は出家者教団の生活規則を集成する『律』(ヴィナヤ)の閲覧を許されていなかったという一般的前提に沿う結論として、在家者の著した文中から『律』を典拠とすると確実に断定できるものを探し出すことが現時点ではできていない。第二に、仏教書を構成する経典・律・論書のうち、在家者が律を用いないことは上述の通りであるが、論書への言及についても論書の種類が限定される。つまり、在家者は全ての論書を読んでいたわけではないらしい。第三に、経典についても在家者が頻繁に引用する経典名と内容には一定の傾向があり、さらに経典の注釈書にまで踏み込んでいる事例を確定的に示すことは難しい。

研究班員

所内: 船山徹, 稲葉稜, 稲本泰生, ウィッテルン, クリスティアン, 古勝隆一, 倉本尚徳, 中

人 文 学 報

- 西竜也, 石垣章子, ラブダール, ネイト
 学内: 中村慎之介 (文学研究科 PD)
 学外: 河上麻由子 (大阪大学大学院人文学研究科), 魏藝 (龍谷大学大学院文学研究科), 中西俊英 (京都女子大学文学部), 村田みお (近畿大学国際学部), 久永昂央 (東大寺ミュージアム), 趙ウニル (梨花女子大学校)
- 発表者: 倉本尚徳
 12月2日 『広弘明集』会読 「發般若經題」(5)
 発表者: 古勝隆一
 12月16日 『広弘明集』会読 「發般若經題」(6)
 +「主上垂爲開講日參承」
 発表者: 久永昂央
 (東大寺ミュージアム)
- 2023年
 1月20日 『広弘明集』会読 「廣弘明集卷第二十」+蕭綱「上大法頌表」+「大法頌」
 発表者: 河上麻由子
 (大阪大学大学院人文学研究科)
 2月17日 『広弘明集』会読 蕭綱「大法頌〈并序〉」(1)
 発表者: 魏 藝 (龍谷大学大学院文学研究科博士課程)
 3月3日 『広弘明集』会読 蕭綱「大法頌〈并序〉」(2) 発表者: 中西俊英
 (京都女子大学文学部)
- 研究実施内容
 2022年
 4月15日 『広弘明集』会読 陸雲「御講波若經序」(3) 訳注 発表者: 倉本尚徳
 5月6日 『広弘明集』会読 陸雲「御講波若經序」(4) 発表者: 趙ウニル
 (京都国立博物館学芸部)
 5月20日 『広弘明集』会読 蕭子顯「御講金字摩訶般若波羅蜜經序」(1)
 発表者: 中村慎之介
 (文学研究科 PD)
 6月3日 『広弘明集』会読 蕭子顯「御講金字摩訶般若波羅蜜經序」(2)
 発表者: 久永昂央
 (東大寺ミュージアム)
 6月17日 『広弘明集』会読 蕭子顯「御講金字摩訶般若波羅蜜經序」(3)
 発表者: 古勝隆一
 7月1日 『広弘明集』会読 蕭子顯「御講金字摩訶般若波羅蜜經序」(4)
 発表者: 魏 藝
 (龍谷大学大学院文学研究科博士課程)
 7月15日 『広弘明集』会読 蕭子顯「御講金字摩訶般若波羅蜜經序」(5)
 発表者: 古勝隆一
 9月16日 『広弘明集』会読 「發般若經題」(1)
 発表者: 船山 徹
 10月7日 『広弘明集』会読 「發般若經題」(2)
 発表者: 中西竜也
 10月21日 『広弘明集』会読 「發般若經題」(3)
 発表者: 趙ウニル
 (梨花女子大学校)
 11月18日 『広弘明集』会読 「發般若經題」(4)
- 東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究
 班長 矢木 毅
 研究期間
 2021年4月~2026年3月(2年目)
 研究実施状況
 本年度は前期14回, 後期13回, 合計27回, Zoomにて開催し, 毎回1点ずつ, 写真を見ながら序跋の会読及び書誌情報の検討を行った。会読の成果は「典拠情報」としてまとめ, 全国漢籍データベースにリンクさせる形で順次公開していく予定である。
 研究班員
 所内: 矢木毅, 高井たかね, 永田知之, 藤井律之, 古松崇志, 宮宅潔, 楊維公, 瞿艷丹, 荘帆
 学内: 道坂昭廣 (人間・環境学研究科)
- 研究実施内容
 2022年
 4月13日 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者: 永田知之
 4月20日 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者: 永田知之

4月27日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：楊 維公	12月28日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：永田知之
5月11日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：楊 維公	2023年		
5月18日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：楊 維公	1月11日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：藤井律之
5月25日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：藤井律之	1月18日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：古松崇志
6月1日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：藤井律之	1月25日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：古松崇志
6月8日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：藤井律之	漢籍共同研究システムの構築		
6月22日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：藤井律之	班長 ウィットイルン クリスティアン		
6月29日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：古松崇志	研究期間		
7月6日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：古松崇志	2021年4月～2026年3月(2年目)		
7月13日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：古松崇志	研究実施状況		
7月20日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：宮宅 潔	今年度は5年計画の2年度になります。毎回の研究会はZoomで行い、オーストラリアからヨーロッパまで海外からの参加者は多いため、日本時間の午後五時からのスタートで開催します。		
7月27日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：宮宅 潔	前年度より具体的に共同研究プラットフォームの機能と開発過程について議論が行いました。一つの事例としては数学文献についての機能の取り組みとこれから追加するテキストを検討しました。		
10月12日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：宮宅 潔	具体的な課題として Wikidata や LOD への対応の必要が浮き彫りになりました。		
10月19日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：矢木 毅	研究班員		
10月26日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：矢木 毅	所内：Wittern, Christian, 安岡孝一, 守岡知彦		
11月2日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部詩類	発表者：矢木 毅	学外：重田みち(京都芸術大学), Harbsmeier, Christoph (University of Oslo, Norway); Schimmelpennig, Michael (Australian National University, College of Asia and the Pacific, Australian Centre on China in the World); Stanley-Baker, Michael (Nanyang Technological University, Lee Kong Chian School of Medicine / School of Humanities); Schwermann, Christian (Ruhr University Bochum, Department of Chinese Language and Literature); Wilke, Tobias (Ruhr University Bochum, Department of Chinese Language and		
11月16日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：高井たかね			
11月30日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：高井たかね			
12月7日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：高井たかね			
12月14日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：永田知之			
12月21日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部書類	発表者：永田知之			

- Literature); Sehnal, David (Heidelberg University, Center for East Asian Studies); Zádrapa, Lukáš (Charles University, Institute of East Asian Studies); Plassen, Jörg (Ruhr University Bochum, Department of Religious Studies); Osterkamp, Sven (Ruhr University Bochum, Department of Japanese Language and Literature); Fahr, Paul (Ruhr University Bochum, Department of Chinese Language and Literature); Zhao Fudie (University of Oxford, United Kingdom Faculty of Asian and Middle Eastern Studies); Diakoff, Harry (Independent Scholar)
- 研究実施内容
- 2022年
- 4月22日 The Bibliotheca Polyglotta and the ideas on which it is built
発表者: Jens Braarvig (Professor Emeritus, Oslo University)
- 5月13日 Current state and future plans for the TLS research platform
発表者: Christian Wittern
- 5月27日 Universal Dependencies for Classical Chinese
発表者: 安岡孝一
- 6月10日 Analytical Framework for the TLS
発表者: Christoph Harbsmeier (University of Oslo)
- 7月8日 The Logic, Syntax and Semantics of Numerals in pre-Buddhist Chinese
発表者: Valerie Kiel (University of Bochum, Department of Japanese Languages and Literature)
- 10月14日 A review of Wikidata in DH projects and some cases in the study of pre-modern Chinese culture
発表者: Fudie Zhao (University of Oxford, United Kingdom, Faculty of Asian and Middle Eastern Studies)
- 10月28日 Character taxonomies, text editing and other recent developments in the TLS collaborative research environment
発表者: Christian Wittern
- 11月25日 The natural language of mathematics and its technical challenges in the TLS
発表者: Andrea Bréard (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg, Sinology - Algorithms, Prognostics, and Statistics)
- 12月9日 Representation of mathematical texts in TLS and other topics
発表者: TLS Project
- 1月27日 Lexeme Relations and Lexeme Constructions in the Filemaker version of the TLS
発表者: David Sehnal (Heidelberg University, Center for East Asian Studies)
- ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義
班長 森本淳生
- 研究期間
2021年4月~2026年3月(2年目)
- 研究実施状況
令和4年度は研究報告会と訳読会を計10回開催した。報告会では昨年度にひきつづき、メンバーがそれぞれの研究テーマについて発表し知見の共有に努めた。具体的には象徴主義を、理論・音楽・演劇・経済・ジェンダー・終焉・日本での受容・リアリズムとの関連等から考察した。あわせて、人文研アカデミーの枠内でシンポジウム「ヴィリエ・ド・リラゲンとフランス象徴主義—『残酷物語』と『未来のイヴ』が現代に語りかけてくるもの」を開催し、社会還元にも努めた。訳読会では、ギルの詩集『至善の生成 (*Le meilleur devenir*)』を最終節まで読み進め、日本語訳と註解の作成を終えた。来年度にプロローグ・エピソード部分の訳稿を作成し全体を整理した上で紀要等に発表する予定である。同書はフランスでも註解がほとんど存在せず、翻訳されるの

も（英訳等も含め）世界初の試みである。企画している象徴主義に関する「読む事典」についてはいくつかの項目の執筆を開始し、具体化に向けて動き出している。

研究班員

所内：森本淳生，藤野志織，藤貫裕
 学内：村上祐二（文学研究科），中筋朋（人間・環境学研究科）
 学外：岡本夢子（東京大学大学院人文社会系研究科），鳥山定嗣（名古屋大学大学院人文学研究科），合田陽祐（山形大学社会文化システム研究科），西村友樹雄（東京経済大学），山田広昭（東京大学名誉教授），橋本知子（千葉大学大学院人文科学研究科），坂巻康司（東北大学大学院国際文化研究科），中野知律（一橋大学大学院社会学研究科），中畑寛之（神戸大学大学院人文学研究科），野田農（早稲田大学創造理工学部），福田裕大（近畿大学国際学部），熊谷謙介（神奈川大学国際日本学部），久保昭博（関西学院大学文学部），足立和彦（名城大学法学部），松浦菜美子（関西学院大学文学部），大出敦（慶應義塾大学法学部），立花史（早稲田大学），フォコニエ，プリース

研究実施内容

2022年

- 5月7日 「象徴主義研究」例会（8）
 フロバール，象徴主義とポスト・ヒューマン的思想—『聖アントワヌの誘惑』を例に 発表者：橋本知子（千葉大学大学院人文科学研究科）
 司会：森本淳生
- 5月8日 「象徴主義文献の翻訳と註釈（ルネ・ギル『至善の生成』）」（4）
 発表者：山田広昭（東京大学名誉教授）
 司会，コメンテーター：森本淳生
- 6月11日 人文研アカデミー「ヴィリエ・ド・リラダンとフランス象徴主義—『残酷物語』と『未来のイヴ』が現代に語りか

けてくるもの」

『残酷物語』を読む—風刺と構成の美学
 発表者：田上竜也

（学習院大学文学部）

『未来のイヴ』と／における超越

発表者：木元 豊（武蔵大学）

コメンテーター：中筋 朋

（人間・環境学研究科）

コメンテーター：福田裕大

（近畿大学国際学部）

コメンテーター：野田 農

（早稲田大学創造理工学部）

司会：森本淳生

7月23日 「象徴主義研究」例会（9）

象徴主義と経済—マラルメの／と経済
 発表者：中畑寛之

（神戸大学大学院人文学研究科）

独身者文学と「逸脱」の美学—象徴主義とジェンダー 発表者：熊谷謙介

（神奈川大学国際日本学部）

司会：森本淳生

7月24日 「象徴主義文献の翻訳と註釈（ルネ・ギル『至善の生成』）」（5）

発表者：岡本夢子

（東京大学大学院人文社会系研究科）

コメンテーター：野田 農

（早稲田大学創造理工学部）

司会：森本淳生

10月8日 「象徴主義研究」例会（10）

象徴主義の終焉？ 発表者：藤野志織
 象徴主義と理論の問題

発表者：森本淳生

司会：森本淳生

10月9日 「象徴主義研究」例会（11）

メーテルランク再考—その戯曲をめぐるいくつかの問題

発表者：坂巻康司（東北大学）

象徴主義時代の美術と演劇の交差—制作座の挿絵入りプログラムを中心に

発表者：袴田紘代（国立西洋美術館）

司会：森本淳生

人 文 学 報

- 12月10日 「象徴主義研究」例会 (12)
大正期のポール・クローデル受容とフランス象徴主義の移入
発表者：学谷 亮 (中京大学)
「前衛」としての象徴主義—象徴主義の終焉を考えるために
発表者：久保昭博 (関西学院大学)
司会：森本淳生
- 12月11日 「象徴主義文献の翻訳と註釈 (ルネ・ギル『至善の生成』)」(6)
発表者：福田裕大 (近畿大学)
コメンテーター：西村友樹雄 (東京経済大学)
司会：森本淳生
- 2023 年
- 3月11日 「象徴主義研究」例会 (13)
ランシエールの近代文学論とフランス象徴主義
発表者：森本淳生
象徴主義的理念の継承者としての音楽雑誌：La Revue musicale 誌 (1920～40) とその先行雑誌について
発表者：西村友樹雄 (東京経済大学)
司会：森本淳生
- 3月12日 「象徴主義文献の翻訳と註釈 (ルネ・ギル『至善の生成』)」(7)
発表者：中筋 朋 (人間・環境学研究科)
コメンテーター：鳥山定嗣 (名古屋大学)
司会：森本淳生
- 秦漢法制史料の研究 班長 宮宅 潔
研究期間
2021 年 4 月～2026 年 3 月 (2 年目)
研究実施状況
まず、岳麓書院所蔵簡《秦律令(壹)》に見える法律用語の分析や、掘り下げるべき条文の検討についての研究報告を行った。この報告内容を基に研究ノートを班員が執筆し、《秦律令(壹)》全体の訳注とともに一書にまとめる編集作業を進めた。この訳注書は年度内に完成し、関連する研究者に配布した。
- 同時に、《秦律令(貳)》の会読を始め、約 50 簡を読了した。里耶秦簡〔壹〕の会読もこれと平行して行い、これについては関係論文を中国・武漢大学の HP「簡帛網」に投稿し、掲載された。
- 研究班員
所内：宮宅潔、古勝隆一、野原将揮、藤井律之、陳捷、安永知晃
学内：宗周太郎 (文学研究科)、斎藤賢 (文学研究科)、西真輝 (文学研究科)、林怡冰 (文学研究科)、章瀟逸 (人間環境学研究科)
学外：土口史記 (岡山大学)、目黒杏子 (京都府立大学)、角谷常子 (奈良大学)、鷹取祐司 (立命館大学)、佐藤達郎 (関西学院大学)、郭聡敏 (立命館大学)、畑野吉則 (立命館大学)、金秉駿 (ソウル大学)、楊長玉 (雲南民族大学)、曹天江 (清華大学)、太田麻衣子 (国士館大学)
- 研究実施内容
2022 年
- 4月1日 岳麓簡訳注考証篇予備発表
上計 発表者：曹 天江 (清華大学)
「廢」と官人処罰の変化
発表者：郭 聡敏 (立命館大学)
- 4月8日 岳麓簡訳注考証篇予備発表
故塞・故徼
発表者：太田麻衣子 (国士館大学)
蜀巴—関連問題の考証
発表者：楊 長玉 (雲南民族大学)
- 4月15日 岳麓簡訳注考証篇予備発表
岳麓〔肆〕341～342 簡の考察
発表者：目黒杏子 (京都府立大学)
居縣
発表者：安永知晃 (関西学院大学)
- 4月22日 岳麓簡訳注考証篇予備発表
行書律について
発表者：畑野吉則 (立命館大学)
同居—世帯構成員を指す法律用語
発表者：鷺尾祐子 (立命館大学)
- 5月6日 岳麓簡訳注考証篇予備発表
嶽麓〔肆〕366～371 簡「毋奪田時令」

彙 報

	をめぐって— 律令と官箴のあいだ		発表者：土口史記（岡山大学）
	発表者：佐藤達郎（関西学院大学）	10月21日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1222～⑧ 1243 発表者：宮宅 潔
	論令出會之		
	発表者：鷹取祐司（立命館大学）	10月28日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 30-38
5月13日	岳麓簡訳注考証篇予備発表		発表者：土口史記（岡山大学）
	名詞の後につく「所」	11月4日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1222～⑧ 1243 発表者：宮宅 潔
	発表者：角谷常子（奈良大学）		
	岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》解題	11月18日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 39-47
	発表者：宮宅 潔		発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
5月20日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 1-11	11月25日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1222～⑧ 1243 発表者：宮宅 潔
	発表者：宮宅 潔		
5月27日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 1-11	12月2日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 39-47
	発表者：宮宅 潔		発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
6月3日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 1-11	12月9日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1222～⑧ 1243 発表者：宮宅 潔
	発表者：宮宅 潔		
6月10日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 12-18	12月16日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 39-47
	発表者：西 真輝（文学研究科）		発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
6月17日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 12-18	12月23日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1313～⑧ 1353 発表者：劉 聡（岡山大学）
	発表者：西 真輝（文学研究科）		
6月24日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 12-18	2023年	
	発表者：西 真輝（文学研究科）	1月6日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 39-47
7月1日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 12-18		発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
	発表者：西 真輝（文学研究科）	1月13日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1313～⑧ 1353 発表者：劉 聡（岡山大学）
7月8日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 12-18		
	発表者：西 真輝（文学研究科）	1月20日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 48-55
7月15日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 19-29		発表者：林 怡冰（文学研究科）
	発表者：宗 周太郎（文学研究科）	1月27日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1313～⑧ 1353 発表者：劉 聡（岡山大学）
7月22日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 19-29		
	発表者：宗周太郎（文学研究科）	2月3日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 48-55
7月29日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 19-29		発表者：林 怡冰（文学研究科）
	発表者：宗周太郎（文学研究科）	2月10日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1313～⑧ 1353 発表者：劉 聡（岡山大学）
9月2日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 19-29		
	発表者：宗周太郎（文学研究科）	2月17日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 48-55
9月9日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1110～⑧ 1143		発表者：林 怡冰（文学研究科）
	発表者：目黒杏子（京都府立大学）	2月24日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1313～⑧ 1353 発表者：劉 聡（岡山大学）
9月16日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 30-38		
	発表者：土口史記（岡山大学）	3月3日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 48-55
9月30日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1188～⑧ 1221 発表者：畑野吉則（立命館大学）		発表者：林 怡冰（文学研究科）
10月14日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 30-38	3月10日	里耶秦簡会談 里耶秦簡⑧ 1354～⑧ 1391 発表者：飯田祥子（古代学協会）
		3月17日	岳麓簡会談 岳麓〔伍〕 56-62

人 文 学 報

<p>発表者：劉 聡 (岡山大学)</p> <p>近現代日本の研究資源に関する基礎的研究</p> <p>班長 小堀 聡・福家崇洋</p>	<p>6月23日 森一久資料 (核融合科学研究所所蔵)の整理と意見交換 発表者：黒川伊織 (エル・ライブラリー), 小堀 聡, 喜多川進 (山梨大学生命環境学部), 福家崇洋</p>
<p>研究期間</p> <p>2022年4月～2025年3月 (1年目)</p> <p>研究実施状況</p> <p>本年度は主に人文研所蔵岩井会旧蔵資料の整理と核融合科学研究所所蔵の森一久資料の調査と整理を行った。前者は大阪の岩井会から昨年度寄贈を受けたもので、1970～1990年代の市民運動の機関紙誌、ビラなどから構成される。およそ月1回のペースで班員が集まって資料を分類することから始め、現在は目録の作成を継続中である。年度末にアルバイト1名を雇用し、目録化の作業を迅速化した。後者の資料は、原子力産業会議副会長などを歴任した森一久の旧蔵資料で、1950～2000年代にかけての原子力政策関係資料で構成されており、その約半分は未整理状態にある。本年度は2回調査を実施し、整理済み資料の内容を検討したうえで、未整理資料の目録化を開始した。以上の資料整理の他に他機関所蔵の資料整理に対する見聞を深めるべく、班員を募って尼崎歴史博物館への見学を行い、同館所蔵の資料を拝見し、職員の方と資料整理の方法などにつき意見交換を行った。</p>	<p>6月24日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 喜多川進 (山梨大学生命環境学部), 福家崇洋, Till Knudt</p> <p>7月14日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 福家崇洋</p> <p>9月15日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 福家崇洋</p> <p>10月13日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 福家崇洋</p> <p>10月21日 森一久資料 (核融合科学研究所所蔵)の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 福家崇洋, 瀬戸口明久</p> <p>11月10日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：黒川伊織 (エル・ライブラリー), 小堀 聡, Till Knudt, 福家崇洋</p> <p>12月8日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 福家崇洋, 須永哲思 (天理大学)</p>
<p>研究班員</p> <p>所内：小堀聡, 福家崇洋, ティル・クナウト</p> <p>学外：喜多川進 (山梨大学生命環境学部), 牧野邦昭 (慶應義塾大学経済学部), 須永哲思 (天理大学人間学部), 佐々木政文 (京都先端科学大学人文学部), 立本紘之 (法政大学大原社会問題研究所), 黒川伊織 (エル・ライブラリー)</p>	<p>2023年</p> <p>1月12日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, 福家崇洋, 須永哲思 (天理大学)</p> <p>2月2日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：Till Knudt, 福家崇洋, 須永哲思 (天理大学)</p> <p>2月14日 尼崎市立歴史博物館での資料見学 発表者：小堀 聡, Till Knudt, 福家崇洋, 須永哲思 (天理大学)</p>
<p>研究実施内容</p> <p>2022年</p> <p>5月16日 研究班の概要と今後の進め方について 発表者：福家崇洋</p> <p>5月19日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：黒川伊織 (エル・ライブラリー), 小堀 聡, Till Knudt, 福家崇洋</p>	<p>3月9日 岩井会資料の整理と意見交換 発表者：小堀 聡, Till Knudt, 福家崇洋, 須永哲思 (天理大学)</p> <p>家族と愛の研究 班長 富山一郎</p> <p>研究期間</p>

2022年4月～2025年3月（1年目）

研究実施状況

初年度である2022年度には、9回の例会を開催し、メンバー相互の対話をスタートさせるとともに、本研究の主題について、共通認識の土台づくりを試みた。例会にて取り上げられたテーマは、20世紀西洋思想における反家族主義・反家父長制思想、中国の一人っ子政策の功罪、母子家庭扶助制度の歴史の変遷、家事労働をめぐるフェミニズム言説の再評価、皇族における「家族と愛」への社会学的アプローチ、生殖医療がもたらす家族観の変化とその限界、児童文学のなかの家族像、24条改憲案に集約される戦後日本の反動的家族主義の本性……と多岐にわたる。また、例会の内1回は国際シンポジウムを兼ね、海外から招聘した研究者とともに、トラウマ（とりわけ、家庭内での性暴力）の経験と記憶をめぐる諸問題について検討した。例会が回を増すにつれて、メンバー相互の理解が確実に深まり、初年度としては充実した議論が交わされた。

研究班員

所内：立木康介、直野章子、酒井朋子、藤野志織、藤原辰史

学内：木下千花（大学院人間・環境学研究科）、丸山里美（大学院文学研究科）

学外：富山一郎（同志社大学グローバルスタディーズ研究科）、沈恬恬（東京大学大学院法学研究科）、中井亜佐子（一橋大学大学院言語社会研究科）、楡井誠（東京大学大学院経済学研究科）、内田利広（龍谷大学文学部）、小川公代（上智大学外国語学部）、熊谷哲哉（近畿大学経営学部）、小門穂（神戸薬科大学薬学部）、鈴木洋仁（東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター）、長瀬正子（佛教大学社会福祉学部）、花田里欧子（東京女子大学現代教養学部）、日高由貴（大阪城南女子短期大学総合保育学科）、菅野優香（同志社大学グローバルスタディーズ研究科）

研究実施内容

2022年

5月21日 アンチオイディプスの半世紀

発表者：立木康介

6月18日 「一人っ子政策」の光と影—社会保障の観点からのアプローチ発表者：沈 恬恬（東京大学／学振PD）

7月16日 母子家庭扶助制度の歴史の変遷と「ケアの絆」論の可能性—「家族と愛」の呪いを解くために（1）発表者：直野章子

9月17日 家事労働に賃金を—愛はどこへ行ったのか 発表者：中井亜佐子（一橋大学）

10月15日 皇室の「家族と愛」 ニクラス・ルーマンを参照して 発表者：鈴木洋仁（東洋大学）

12月4日 国際シンポジウム「記憶の存在論と歴史の地平Ⅲ」

Through a Glass Darkly: Recollecting, Representing, and Interpreting the Past

発表者：Janice HAAKEN

（ポートランド州立大学（名誉教授））

コメンテーター：直野章子、花田里欧子（東京女子大学）

2023年

1月21日 血の繋がりと親になる意思—生殖医療における家族と愛

発表者：小門 穂（神戸薬科大学）

2月18日 児童文学の中の家族像—松谷みよ子『モモちゃんとアカネちゃん』に描かれた「離婚」について 発表者：日高由貴（大阪城南女子短期大学）

3月18日 母子世帯の母親は、なぜ「家族の自助努力」を要請されつづけているのか？—24条改憲論と戦後日本の家族主義

発表者：若尾典子（佛教大学）（元）

東アジアの宗教美術と社会

班長 稲本泰生

研究期間

2022年4月～2025年3月（1年目）

研究実施状況

初年度の本年度は対面・オンラインのハイブリッドで研究会を開催し、メンバーの参加形態は各回ともほぼ半々であった。「龍門北朝窟の造像と造像記」の後継班として発足した当班では研究所の蔵する拓

本資料を活用し、龍門石窟造像記の読解を継続して行っている。過去五年で確立した手順に沿って、文字だけに注目するのではなく、無紀年・無銘分も含めた全ての造像について、壁面のブロック単位で網羅的に検討する作業を進めており、最も重要な北朝窟の一つである蓮華洞について、洞外も含めた全壁面の検討を終了した。ついで賓陽三洞の造像と造像記に着手し、賓陽中洞洞外壁面の検討を終えた。この通例の会に加えてメンバー各人の専門分野に沿った研究報告にも力を入れ、中央アジアから東アジアに及ぶ、仏教関連の造形資料と文字資料を扱った多彩な発表が行われた。また下野玲子氏をゲストスピーカーとして招き、仏頂尊勝陀羅尼の信仰と美術に関する包括的かつ最新の研究成果を共有することができた。

研究班員

所内：稲本泰生、岡村秀典、安岡孝一、フォルテ・エリカ、倉本尚徳、向井佑介、佐藤智水、高志緑、易丹韵

学内：内記理（文化財総合研究センター）、檜山智美（白眉センター）、富岡采花（文学研究科）

学外：上枝いづみ（金沢大学・人間社会研究域）、アヴァンツィ・カルロッタ（秋田県立大）、山名伸生（京都精華大・総合人文学部）、大西磨希子（佛教大・仏教学部）、濱田瑞美（横浜美術大）、篠原典生（中央大・総合政策学部）、高橋早紀子（愛知学院大・文）、苦名悠（大阪大谷大・文）、打本和音（京都芸術大学）、齋藤龍一（大阪市立美術館）、石松日奈子（東京国立博物館）、王珏人（京都国立博物館）、外山潔（泉屋博古館）、田林啓（白鶴美術館）、北村一仁（河南農業大）、呉虹（復旦大学・哲学学院）、黄盼（中国社会科学院・考古研究所）、常鉦熙（北京大学・考古文博学院）

研究実施内容

2022年

4月12日 新研究班発足にあたって
発表者：稲本泰生
龍門蓮華洞南壁造像記の再検討

発表者：富岡采花（文学研究科）
4月26日 研究報告：フリーア美術館所蔵法界仏像の「世界図」について
発表者：易丹韵（学振PD研究員）
5月10日 龍門蓮華洞南壁造像記の再検討
発表者：田林啓
（人文学連携研究者・白鶴美術館）
5月24日 龍門蓮華洞南壁造像記の再検討
発表者：田林啓（白鶴美術館）
6月14日 龍門蓮華洞南壁造像記の再検討
発表者：田林啓（白鶴美術館）
6月28日 龍門蓮華洞南壁造像記の再検討
発表者：田林啓（白鶴美術館）
7月12日 龍門蓮華洞外壁造像記の再検討
発表者：田林啓（白鶴美術館）
研究報告：白鶴美術館蔵白石蓮台について 発表者：田林啓（白鶴美術館）
7月26日 研究報告：北朝後期晋豫交界地区における造像活動と地域社会—地方官・中小豪族、そして民
発表者：北村一仁（河南農業大学）
10月11日 研究報告：敦煌に現れたコータンの文化—研究プロジェクト「9世紀から11世紀にかけての敦煌におけるコータン関連仏画の総合的研究」の背景と目標 発表者：エリカ・フォルテ
10月25日 龍門蓮華洞外壁造像記の再検討
発表者：田林啓（白鶴美術館）
11月8日 龍門蓮華洞北壁造像記の再検討（補遺）及び賓陽三洞の概要と論点
発表者：稲本泰生
龍門賓陽中洞外壁造像記の再検討
発表者：苦名悠（大阪大谷大学）
11月22日 龍門賓陽中洞外壁造像記の再検討
発表者：苦名悠（大阪大谷大学）
12月13日 龍門賓陽中洞外壁造像記の再検討
発表者：苦名悠（大阪大谷大学）

2023年

1月10日 研究報告：仏頂尊勝陀羅尼と仏陀波利訳経序に関する諸問題
発表者：下野玲子

彙 報

	(早稲田大学會津八一記念博物館)	近代歌舞伎における懐古・改良意識および伝統劇化	
1月24日	研究報告：東大寺大仏殿四天王像考 発表者：富岡采花（文学研究科） 龍門賓陽中洞外壁造像記の再検討 発表者：若名 悠（大阪大谷大学）	金 智慧 近代フランス文学・芸術における「遊戯」jeu の再 検討 藤野 志織	
2月14日	研究報告：供養者像を楽しむー中国 からウズベキスタンまで 発表者：石松日奈子 （東京国立博物館）		東方学研究部
	個人研究	川西走廊の漢藏諸語の記述研究 中国共産党史の研究 イスラーム東漸史の研究 東アジア仏教美術史の研究 仏教研究知識ベースー 禅仏教を例として	池田 巧 石川 慎浩 稲葉 稔 稲本 泰生
	人文学研究部		WITTERN, Christian
近世社会解体過程の研究	岩城 卓二	古代中国の考古学研究	岡村 秀典
近代西洋音楽史	岡田 暁生	中国注釈学史研究	古勝 隆一
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク		中央アジア東部の仏教文化	FORTE, Erika
	籠谷 直人	インド・中国における仏教の学術と実践	船山 徹
イギリス・アイルランド近現代史	小関 隆	10~13世紀ユーラシア東方における王朝間関係の 研究	古松 崇志
技術・自然・(ポスト)現代性の思想ー 哲学的探 求	佐藤 淳二	秦漢制度史の研究	宮宅 潔
近代天皇制の文化史的研究	高木 博志	高麗官僚制度研究	矢木 毅
近代日本美術と西洋	高階絵里加	文字コード理論	安岡 孝一
人種・エスニシティ論	竹沢 泰子	六朝隋唐仏教史の研究	倉本 尚徳
精神分析的知の思想史的位置づけ	立木 康介	中国絵画史の研究	呉 孟晋
西アフリカと南アジアの宗教、憑依、間身体性		中国中世近世の文学理論	永田 知之
	石井 美保	中国イスラームの研究	中西 竜也
近代トランスコーカサス（特にグルジア）における 匪賊	伊藤 順二	上古中国語音韻史の研究	野原 将揮
近現代日本の社会史、思想史、技術史		東アジア伝統科学の研究	平岡 隆二
	KNAUDT, Till	歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究	向井 佑介
近現代日本の社会経済と環境	小堀 聡	近代華南沿海の社会経済制度の変容	村上 衛
汚穢と非ー秩序をめぐる日常現場の倫理		東方学における対象の論理学的研究	白須 裕之
	酒井 朋子	中国家具とその使用に関する研究	高井たかね
東アジアにおける生命科学と「自然」	瀬戸口明久	20世紀台湾農業経済の変容と自治・自律	
〈非人間〉の歴史と記憶の存在論	直野 章子		都留俊太郎
近現代日本の社会運動・社会思想	福家 崇洋	中国古代中世の官制史	藤井 律之
農業史の再構築	藤原 辰史	東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の 研究	宮 紀子
フランス象徴主義と文学的モデルニテ	森本 淳生		
共同的認識実践の歴史	岡澤 康浩	文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究	
近代日本民俗誌システムの研究	菊地 暁		守岡 知彦

近世以降日本における中国の戯曲と小説の受容

楊 維公

司会：森本 淳生

事業概況

・ Kyoto Lectures 2022

2022年4月13日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
に Zoom で配信)

De-Christianizing Nagasaki: Temples and Shrines
in the Early Edo period

講演者：Carla Tronu (関西外国語大学)

・ Kyoto Lectures 2022

2022年5月16日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
に Zoom で配信)

Between Collective Security and ‘Old Diplomacy’:
Japanese-French Relations during the Manchurian
Crisis, 1931-1933

講演者：Seung-young Kim (関西外国語大学)

・ 人文研アカデミー 2022 シンポジウム「ヴィリ エ・ド・リラダンとフランス象徴主義 — 『残酷物 語』と『未来のイヴ』が現代に語りかけてくるも の』

2022年5月16日

於 京都大学人文科学研究所本館 大会議室 (同
時に Zoom で配信)

『残酷物語』を読む — 風刺と構成の美学

田上 竜也 (学習院大学文学部)

『未来のイヴ』と／における超越

木元 豊 (武蔵大学人文学部)

コメンテーター：中筋 朋

(京都大学大学院人間・環境学研究科),

福田 裕大 (近畿大学国際学部),

野田 農 (早稲田大学創造理工学部)

・ 人文研アカデミー 2022 夏期公開講座「名作再読 いま読んだらこんなに面白い 14」

2022年7月2日

於 京都大学人文科学研究所本館 セミナー室 1
(同時に Zoom で配信)

デカルト『方法叙説』を読み直す — 「私」と「方
法」

佐藤 淳二

玄奘三蔵の伝記を読み直す — 帰国後の行跡を中心
に

倉本 尚徳

疾しさの澱, 安岡章太郎短篇作品の魅力を探る

藤野 志織

・ 人文研アカデミー 2022 シンポジウム「東アジア の脱植民地化とジェンダー秩序 — 女性たちの経 験と集合的記憶の再構築」

2022年7月10日

於 京都大学人文科学研究所本館 大会議室 (同
時に Zoom で配信)

開会挨拶

竹沢 泰子

趣旨説明

蘭 信三 (大和大学)

第一報告：「満洲からの引揚げと性暴力被害 — 被
害者の名乗り出による集合的記憶の揺らぎ」

山本 めゆ (立命館大学)

第二報告：「日ソ戦後の記憶とジェンダー：サハリ
ンをめぐる残留と抑留」

中山 大将 (釧路公立大学)

第三報告：「済州4・3の犠牲者と遺族：存在の規定
とジェンダー」

伊地知紀子 (大阪公立大学)

第四報告：「女性政治受難者の経験と記憶を読み解
く — 台湾 50 年代白色テロルをめぐって —」

松田 京子 (南山大学)

コメント+リプライ+総合討論

長志 珠絵 (神戸大学), 蘭 信三

・ Kyoto Lectures 2022

2022年7月15日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
に Zoom で配信)

How Zen Became Japanese: The Daito Branch and the Birth of a New Practice in Rinzai Buddhism

講演者: Didier Davin (国文学研究資料館)

・日仏共同研究 出版記念シンポジウム『人種主義と反人種主義～越境と転換』

2022年7月16日

於 キャンパスプラザ京都 6階 第5講習室 (同時に Zoom で配信)

本書の趣旨

竹沢泰子, ジャン=フレデリック・シヨブ (フランス国立社会科学高等研究院-TEPSIS)

執筆: 太田 博樹, 長 志珠絵, 関口 寛,

竹沢 泰子, ジャン=フレデリック・シヨブ

評者: 森 千香子 (同志社大学),

安岡 健一 (大阪大学), 石井美保

・人文研アカデミー 2022 合同合評会「実践としての科学的認識:『客観性』『ラボラトリー・ライフ』を読む」

2022年7月24日

於 京都大学人文科学研究所本館大会議室 (同時に Zoom で配信)

開会挨拶

河村 賢 (大阪大学社会技術共創研究センター)

『ラボラトリー・ライフ』紹介

金 信行 (東京大学大学院学際情報学府)

『客観性』紹介

瀬戸口明久

評者報告

前田 泰樹 (立教大学社会学部),

鈴木 舞 (東京電機大学未来科学部),

金 凡性 (東京理科大学教養教育研究院)

閉会挨拶 立石 裕二 (関西学院大学社会学部)

司会: 岡澤 康浩, 森下 翔

(大阪大学社会技術共創研究センター)

・第35回「東洋学へのコンピュータ利用」研究セミナー

2022年7月29日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室1 (同時に Skype で配信)

低品質文字画像を用いた高精細画像からの字形自動

再切り出しの試み

守岡 知彦

玉篇系字書の構造化記述に関する TEI マークアップについて

李 媛 (関西大学)

青空文庫 DeBERTa モデルによる国語研長単位係り受け解析

安岡 孝一

・国際シンポジウム「近代日本・中国における章学誠研究熱の形成とそのインパクトー内藤湖南, 胡適および 20 世紀中国学の諸相ー」

2022年7月31日 (Zoom で開催)

戴震と章学誠と胡適ー乾嘉への接続と学術史の文脈

竹元 規人 (福岡教育大学教育学部)

「章学誠轉向」與現代中國的史學實踐: 胡適到余英時

潘 光哲 (台湾中央研究院近代史研究所)

19 世紀中国の知識人が見た章学誠とその言説ー史論家・思想家への道ー

永田 知之

与内藤湖南同步推崇章学誠的劉咸炘和何炳松ー章学在 1920 年代成為顯学的两个年輕推手ー

陶 徳民 (関西大学東西学術研究所)

余嘉錫の章学誠理解ー継承と批判 古勝 隆一

京都 Sinology 与近代湘学之間

劉 岳兵 (中国南開大学日本研究院)

内藤湖南と梁啓超の文徳 (設身處地) について

高木 智見 (山口大学人文学部)

・フランス書簡体小説シンポジウム **Les belles lettres dangereuses – le destin de l'épistolarité littéraire du XVIIe au XIXe siècle**

2022年8月28日, 29日

於 京都大学人文科学研究所 本館 4階 大会議室

La rhétorique épistolaire des passions dans les

Lettres portugaises

Katsuya Nagamori (京都大学)

Les Lettres persanes, ou les malheurs de la vertu selon Montesquieu

Kenta Ohji (東京大学)

« Ce n'est plus une lettre, c'est un livre »: La Religieuse de Diderot aux marges du genre épistolaire

Raphaëlle Brin

(École normale supérieure de Lyon)

Esquisse du problème épistolaire chez Rétif de Bretonne

Atsuo Morimoto

- Le roman épistolaire et l'expérience de hauteur : à propos d'Oberman de Senancour
 Daisuke Kataoka (慶応義塾大学) 10月7日 契丹(遼)・金の社会と仏教
 藤原 崇人(龍谷大学)
- « Tu m'as trop menti » : poétique de la feintise et de la franchise épistolaires chez Balzac
 Tomoko Hashimoto (千葉大学) 10月14日 金・元時代の都市と生活
 渡辺 健哉(大阪公立大学)
- La fiction épistolaire en France au XIXe siècle, déclin et expérimentations
 Claudie Bernard (ニューヨーク大学) 10月21日 モンゴル時代の記憶と祖先伝承
 飯山 知保(早稲田大学)

・ Kyoto Lectures 2022

- 2022年9月2日
 於 京都大学人文科学研究所 本館1階 セミナー室1
- ・ラファエル・ブラン講演会 **Repenser les relations économiques : La Nouvelle Héloïse de Rousseau**
 講師 : Raphaëlle Brin (École normale supérieure de Lyon)
- 2022年10月19日
 於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時にZoomで配信)
- An Archaeology of Wealth and Poverty : Unexpected Sources of Medieval Japanese Economic Thought
 講演者 : Ethan Segal (ミシガン州立大学)

- ・国立大学附置研究所・センター会議 第3部会 (人文・社会科学系) シンポジウム「感染症と近代社会 — ポスト・パンデミックの人文学にむけて」
 2022年9月8日, 15日, 22日, 29日
 於 京都大学人文科学研究所本館 セミナー室1 または大会議室 (同時にZoomで配信)

- ・人文研アカデミー 2022 『近現代中国研究の最前線 : 現代中国研究センター設立 15周年 連続セミナー』
 開会挨拶 時任 宣博 (京都大学理事・副学長)
 ワクチン伝来と近世長崎 : 感染症, 蘭学, 近代化 平岡 隆二
 『公衆』衛生の誕生 — 近代日本における伝染病とその啓蒙 香西 豊子 (佛教大学教授)
- 9月8日 京大人文研の近現代中国研究の歴史
 小野寺史郎 (人間・環境学研究科准教授)
- 9月15日 中国経済の特徴は何か — 中国近代史から考える 村上 衛
- 9月22日 台湾独立とは何か — ことばの歴史から考える 都留俊太郎
- 9月29日 毛沢東と田中角栄の会談 — 国交正常化50周年にあたって振り返る 石川 禎浩
- コロナ・パンデミックの歴史的な位置 — スペイン風邪との比較から 藤原 辰史
 総合討論 ディスカッション : 岩城 卓二
 閉会挨拶 稲葉 稔

- ・人文研アカデミー 講演会 ローラ・喜納のアートとトーク「ウチナーンチュのルーツを辿って」
 2022年9月30日, 10月7日, 14日, 21日 (オンライン開催)
- 2022年10月30日
 於 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
 講演 : ローラ・キナ (米国ドゥポール大学)
 コメント : 喜納 育江 (琉球大学国際地域創造学部)
 司会 : 竹沢 泰子
- 9月30日 天と祖先をまつる — 遼・金・元の儀礼祭祀と王権 古松 崇志

・人文研アカデミー 2022 オンラインセミナー「大作曲家たちはどうやって名曲を作ったか」

2022年11月1日（オンライン開催）

講師：浅井 佑太（お茶の水女子大学講師），
岡田 暁生

・Kyoto Lectures 2022

2022年11月16日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・
イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時
にZoomで配信）

Ogyu Sorai's Political Theory Reconsidered: What,
and Why?

講演者：Olivier Ansart（パリ大学）

・シンポジウム「記憶の存在論と歴史の地平Ⅲ」

2022年12月3日（オンライン開催）

開会挨拶 立木 康介
趣旨説明 直野 章子
基調講演 Through a Glass Darkly: Recollecting,
Representing, and Interpreting the Past

Janice HAAKEN
（ポートランド州立大学名誉教授）

パネル討論

討論者：花田里欧子（東京女子大学），直野 章子
司会：立木 康介

全体討論

・人文研アカデミー 2022 シンポジウム「日本古代
中世の仏像彫刻 — 阿弥陀如来の変容をさぐる
—」

2022年12月4日（オンライン開催）

「飛鳥奈良時代の阿弥陀造像」田中 健一（文化庁）
「平安時代における阿弥陀の印相転換」

高橋早紀子（愛知学院大学）

「快慶研究最前線 — 阿弥陀如来像を中心に —」

山口 隆介（奈良国立博物館）

総合討論

ファシリテーター：佐々木守俊（清泉女子大学）
司会：稲本 泰生

・特別講演会「ホージャ・ウバイドゥッラー・アフ
ラーの伝記、言葉、逸話についての一次資料と、
『生命の泉からの滴り』の新しい校訂本に携わっ
た経験」

2022年12月9日（オンライン開催）

講師：アーリフ・ナウシャヒー
（ゴードン・カレッジ元教授）

・人文研アカデミー 2022 オンラインシンホ° シ
ウム「山に生きる — なりわいと環境の歴史学」

2022年12月10日（オンライン開催）

柳田国男以前のこと — 日向国椎葉山に生きる人々
— 武井 弘一（琉球大学）

「ゴミ」から「資源」を「拾う」 — 鉱山に生きる
人々 — 岩城 卓二

司会+コメンテーター：藤原 辰史

・分野横断プラットフォーム・ワークショップ
『Past, present and future of Asian lacquer :
urushi from art to electronics』

2022年12月12日

於 京都大学学術研究支援棟セミナー室 B1（同
時にZoomで配信）

開会挨拶、趣旨説明 Erika Forte

高台寺蒔絵の復元 下出祐太郎（京都産業大学）
ウルシの内樹皮および樹脂道の形成過程

二社谷祐司（京都大学農学部）

東アジアの出土漆器 — 考古学上の論点と異分野協
働事例の報告 大谷 育恵

漆被膜の分子特性 Ilaria Bonaduce（ピサ大学）
漆を用いた電子回路の開発、実証、応用

橋本 悠希（筑波大学）

博物館コレクション内のアジア漆器：特性評価と保
存における課題 Diego Tamburini（大英博物館）

有機ニューロモルフィックシステムの基礎

Victor Erokhin（パルマ大学）

閉会の言葉 中村 正治（京都大学工学研究科），
峰尾 恵人（京都大学農学研究科）

・Kyoto Lectures 2022

2022年12月14日（オンライン開催）

Doxographies of Empire: The Imperial Transformation of Japanese Buddhist Thought

講演者: Stephan Kigensan Licha
(ハイデルベルク大学)

・フロラン・ゲナール講演会「戦争とは何か? ルソーによる国家とその紛争性」

2023年1月17日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室1

講師: フロラン・ゲナール
(パリ東クレテューユ大学)

・Kyoto Lectures 2023

2023年1月24日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時に Zoom で配信)

The Politics of Flying Saucers in Yukio Mishima's Beautiful Star

講演者: Stephen Dodd (ロンドン大学)

・近現代天皇制を考える学術集会 — 「建国記念の日」に問う

2022年2月11日

於 京都大学工学部総合研究4号館共通第1講義室

「建国記念」の近現代史 高木 博志
天皇の代替わりと映画 紙屋 牧子 (玉川大学)
「帝国日本」の学校儀式

樋浦 郷子 (国立歴史民俗博物館研究部)
昭和戦前期の君民間コミュニケーション — 地方行幸時の「御下問」行為に注目して —

佐々木政文 (京都先端科学大学人文学部)
「不敬」のプリズム — 大川周明と〈紀元二千六百年〉

福家 崇洋
ヨーロッパ史における君主政と共和政 — 王のいない共和政を展望するために

小山 哲 (京都大学大学院文学研究科)

・Kyoto Lectures 2023

2023年2月13日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時に Zoom で配信)

Megaliths Everywhere: Prehistoric Japan as a Showcase of Human Societies' Diversity

講演者: Laurent Nespoulous
(フランス国立東洋言語文化学院)

・「中世から近代の西アジア・イスラーム都市の構造に関する歴史学的研究」第36回研究会 (講演会)

2023年2月18日

於 (人文科学研究所) 本館セミナー室4

Urban Structure and Urban Change in Seljuq Baghdad

Vanessa Van RENTERGHEM
(フランス東洋言語文化学院)

Tehran at the Transition from the Qajars to the Pahlavis: Modernization and the History of Everyday Life

Anja PISTOR-HATAM (キール大学)

・Qajar Round Table: Urban Landscapes in Qajar Iran

2023年2月20日

於 (人文科学研究所) 本館四階大会議室

Opening Address 稲葉 穰

Opening Remarks 守川 知子 (東京大学)

Artisans and Handicrafts of 19th century Isfahan: Legacy of Safavid Iran 守川 知子 (東京大学)

Women's Socio-economic position in the urban life of Tehran during the Qajar period: A Case Study based on the Daftar-e Shar'iyat of the Imam Jom'e Khoie

Susan ASILI (テヘラン大学)

Cities and Settlements in Iranian Makran at the Turn of the 19th and 20th Centuries

小澤 一郎 (立命館大学)

A Photo with Mirza 'Ali Asghar Khan Atabak in it, taken during his stay in Japan: Reconstructing its Context

黒田 卓 (東北大学)

Urban Landscape of Iran as described in Masaharu Yoshida's Travelogue (1880-1881)

Hashem RAJABZADE (大阪大学)
Social Structures of the Tabrizi Urban Quarters in
the Naseri Era 阿部 尚史 (お茶の水女子大学)
Landscapes of Constitutionalism in Tehran: The
Capital and Its Parliament

Anja PISTOR-HATAM (キール大学)
Between Cities and Villages: a Qasabe in Qajar
Demography 近藤 信彰 (東京外国語大学)
Closing Remarks 守川 知子 (東京大学)

・日仏国際シンポジウム: **Les revies de Rétif de la
Bretonne - Subjectivités, généalogies, morales**
2023年2月22日, 23日

於 京都大学人文科学研究所 4階 大会議室 (同
時に Zoom で配信)

I. Identité(s) et fantasma autobiographique
Naissance d'un écrivain — *Le Paysan pervers* et la
tradition littéraire comme espace des possibles
narratifs 森本 淳生

Monsieur Nicolas ou l'« anatomie du moi humain »
Françoise Le Borgne
(クレルモン=オーベルニュ大学)

« Un livre vivant » et le fétichisme — Rétif chez
Blanchot 郷原 佳以 (東京大学)

II. Morales: les limites de l'homme
Déconstruire le mariage: Rétif entre Rousseau et
Sade 藤田 尚志 (九州産業大学)

L'inquiétude, la morale et le bonheur dans *Les Nuits
de Paris* 石田 雄樹 (神戸大学)

III. Généalogies en question
Nerval et Rétif de La Bretonne: généalogie,
théâtralité et matériau onirique

辻川 慶子 (白百合女子大学)
Malaise dans la filiation, ou comment relire Rétif
aujourd'hui Gisèle Berkman
(国際哲学コレージュ)

・第18回 京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍
SEMINAR 『漢籍の遙かな旅路2—日本への旅
路—』

2023年3月6日

於 一橋大学一橋講堂中会議場
海を越えた韓書と漢籍 矢木 毅
行きて帰りし書物—漢籍の往還をめぐる—

永田 知之
海西と海東の『王勃集』
道坂 昭廣 (京都大学大学院人間・環境学研究所)

・京都大学人文科学研究所退職記念講演会
竹沢泰子教授 退職記念講演会『人間の分類と差別
—人種をめぐる文化人類学的探究—』

2023年3月11日

於 京都大学百周年時計台記念館2階国際交流
ホール (同時に Zoom で配信)

コメンテータ: 齊藤 綾子
(明治学院大学文学部教授),
岩谷 彩子 (京都大学人間・環境学研究所教授),
徳永 悠 (京都大学人間・環境学研究所准教授)

司会: 西郷南海子
(日本学術振興会特別研究員PD)
岡村秀典教授 退職記念講演会『古代中国 人はど
のように生きたか』

2023年3月16日

於 京都大学人文科学研究所本館共通1講義室
(同時に Zoom で配信)

司会: 向井 佑介

・Kyoto Lectures 2023

2023年3月15日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO)・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
に Zoom で配信)

Reframing Japonisme: Women's Engagement with
Japanese Art in 19th-Century France

講演者: Elizabeth Emery (モンクレア州立大学)

・国際ワークショップ「中国近代における経書の受
容と変容」

2023年3月19日

於 京都大学人文科学研究所分館・大会議室 (同
時に Zoom で配信)

発表者: 陳 佑真, 竹元 規人,

邱 惠芬, 吉田 勉, 金 培懿

招へい研究員

- ・林 立萍 台湾大学日本語文学科教授
外の視点から京ことばの特徴を考える
(文化連関研究客員部門)
受入教員 岩城教授
期間 2022年4月1日～2022年9月30日
- ・YI, Lidu フロリダ国際大学准教授
3～6世紀シルクロードの仏教伝播における宗教
的实践と儀礼
(文化生成研究客員部門)
受入教員 向井准教授
期間 2022年5月1日～2022年7月31日
- ・馮 繼仁 ハワイ大学ヒロ校准教授
『营造法式』の文献学研究
(文化生成研究客員部門)
受入教員 古松教授
期間 2022年7月6日～2022年10月5日
- ・CHRISTY, Alan Scott カリフォルニア大学サン
タクルーズ校准教授
八重山戦争マラリア：帝国主義、科学と記憶のポ
リティクス
(文化生成研究客員部門)
受入教員 直野准教授
期間 2022年10月1日～2022年12月31日
- ・張 曦 中央民族大学民俗学與社会学学院文化人
類学教授
自然災害と文化の継承に関する中日比較研究
(文化連関研究客員部門)
受入教員 池田教授
期間 2022年10月1日～2022年12月31日

招へい外国人学者

- ・HUBBARD, James Bert スミス大学教授
中国・日本仏教文献/仏教と脳科学に関する研
究

受入教員 Wittern 教授

期間 2021年10月1日～2023年9月30日

- ・Duojiicaidan 青海民族大学准教授
日本におけるチベット学と西域研究の展開
— 宗教哲学と仏教文化を中心に —

受入教員 池田教授

期間 2022年2月10日～2022年7月26日

- ・張 利軍 東北師範大学歴史文化学院副教授
夏商周国家構造の考古学研究

受入教員 岡村教授

期間 2022年6月13日～2023年4月26日

- ・高 婧聡 東北師範大学歴史文化学院副教授
西周時代の国家構造とその歴史的影響

受入教員 岡村教授

期間 2022年6月13日～2023年4月26日

- ・李 乃琦 中国浙江大学文学部准教授

玄応「一切経音義」写本文献整理集成と言語研
究

受入教員 船山教授

期間 2022年6月20日～2023年1月20日

- ・YI, Lidu フロリダ国際大学准教授

3～6世紀シルクロードを介した仏教伝播につ
いての美術考古学的研究

受入教員 向井准教授

期間 2022年8月1日～2022年9月7日

- ・BEHR, Wolfgang

上古中国語における放浪語

受入教員 野原准教授

期間 2022年9月1日～2022年12月31日

- ・李 皓 東北師範大学歴史文化学院副教授

辛亥革命期の中国東北辺境政局に対する日本の
対応

受入教員 石川教授

期間 2022年10月24日～2023年10月14日

- ・楊 奎松 華東師範大学中国当代史研究セン
ター主任

1949年以前の毛沢東の前半生とその思想につ
いての考証

受入教員 石川教授

期間 2023年1月1日～2023年12月31日

- ・崔 善娥 明知大校教授

9世紀東アジアにおける仏教美術の研究

受入教員 稲本教授

期間 2023年1月30日～2023年2月24日

・KATA, Prachatip カセサート大学講師

The living with deteriorated soil: The transformative ethics in troubled naturecultural worlds

受入教員 酒井准教授

期間 2023年3月25日～2023年4月27日

外国人共同研究者

・易 丹韵 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

仏教宇宙観の中国的展開に関する研究—5～13世紀の「世界図」制作を手掛かりに—

受入教員 倉本准教授

期間 2021年5月6日～2022年8月17日

・蔡 長廷 国立聯合大学通識教育中心兼任助理教授

日本における征服王朝論の発展とその後

受入教員 古松教授

期間 2022年3月8日～2023年3月7日

・趙 一水 高麗大学民族文化研究院訪問学者

近世朝鮮及び清朝の政治的言説における日本

受入教員 矢木教授

期間 2022年4月6日～2023年4月5日

・胡 頌 台湾大学中国文学研究所博士候選人

南北朝時代における国家意識の構築とその表象—外交使節・活動を中心に—

受入教員 永田准教授

期間 2022年4月22日～2023年4月21日

・Elia Weber ベルリン自由大学修士課程

Indo-Iranian animal sacrifice (インド・イランの動物供犠)

受入教員 石井准教授

期間 2022年6月9日～2022年8月11日

・Baoli Yang ブラウン大学 Ph. D. candidate

唐代仏教とシルクロードの観光文化

受入教員 倉本准教授

期間 2022年7月4日～2022年8月1日

・楊 翊 ハーバード大学博士後期課程

叙述史学から分析史学へ：唐宋時代の史学の転換

受入教員 古松教授

期間 2022年8月21日～2023年8月20日

・BROWNING, Jason インディアナ大学ブルームントン校博士課程

Early Medieval Central Asian Buddhist Philosophy as Reflected in Early Japanese and Islamic Scholastic Traditions: Examining the Transmission of the Doctrine of Momentariness

受入教員 中西准教授

期間 2022年8月22日～2023年8月21日

・劉 素桂 蘭州大学外国語学院副教授

近代日本人による中国文化財調査

受入教員 向井准教授

期間 2022年12月2日～2023年11月30日

・郭 珮君

日本中世の仏教願文における神国と仏国

受入教員 倉本准教授

期間 2023年2月1日～2023年7月31日

外国人研究生

・石垣 章子

漢訳仏典として位置付けられた疑偽經典の成立と思想の系譜

受入教員 船山教授

期間 2018年4月1日～2024年3月31日

・Pelayo Prieto, Miguel Angel

和食前の日本料理。中世・近世日本料理への新しいアプローチ。

受入教員 藤原准教授

期間 2021年4月1日～2023年3月31日

・Depairon, Philippe

Representations of Memories of Traumatic Events in Contemporary Japan

受入教員 直野准教授

期間 2022年4月1日～2023年9月30日

- ・ 莊 帆
京都における羅振玉の生活と思想
受入教員 石川教授
期間 2022年4月1日～2023年7月30日
- ・ 丁 麗瓊
感情史の視点から見る日中戦争時期の中国共産
党新聞宣伝史の研究 (1931-1945)
受入教員 石川教授
期間 2022年5月1日～2023年4月30日
- ・ 沈 佳穎
海洋における帝国—日本帝国海洋主権の形成
受入教員 福家准教授
期間 2022年6月1日～2023年3月31日
- ・ Nathaniel Lovdahl
唐と宋王朝の仏教受戒歴史
受入教員 船山教授
期間 2022年6月1日～2024年3月31日
- ・ Kirill Kartashov
1880～1950年代日本における除虫菊の歴史
受入教員 瀬戸口准教授
期間 2022年6月1日～2022年11月30日
- ・ 申 晴
清末以降の幣制改革
受入教員 村上准教授
期間 2022年9月1日～2023年8月19日
- ・ 黄 蓉
唐・宋・西夏時代における漢、チベットの薬師
仏図像とその信仰に関する研究
受入教員 稲本教授
期間 2022年10月1日～2023年9月30日
- ・ 姜 伊
漢唐時期における天象図の変遷についての考古
学的研究
受入教員 向井准教授
期間 2022年10月1日～2023年9月30日
- ・ 李 瀾
唐代の石刻造像銘と中国仏教実践
(Stone Inscriptions and Chinese Buddhist
Practices in the Tang Dynasty)
受入教員 倉本准教授
期間 2023年1月1日～2024年3月31日

出版物

紀要

- ・ 人文学報 第119号 (紀要第196冊)
2022年6月30日刊
- ・ 東方学報 97冊 (紀要第197冊)
2022年12月25日刊
- ・ 人文学報 第120号 (紀要第198冊)
2023年2月28日刊
- ・ ZINBUN number53
2023年3月刊

研究報告その他

- ・ センター研究年報2022
2023年2月28日刊